

One purpose

FOR BETTER COMMUNICATION



同志社大学通信
DOSHISHA UNIVERSITY

特集

同志社の誇るべき「知」の砦

～人文科学研究所・アメリカ研究所・理工学研究所

●同志社人訪問

合名会社まるはら 社長

原 次郎左衛門正幸さんに聞く

『ONE PURPOSE』は在学生・卒業生の皆さんとのコミュニケーションをはかることを目的として発行しています。
ささいなことでも結構ですので、どしどし広報課までご意見・情報をお寄せください。



特集

同志社の誇るべき「知」の砦

～人文科学研究所・アメリカ研究所・理工学研究所

2

ゼミ探訪 学びの時間

7

法学部 政治学科 森 裕城ゼミ

同志社の研究は今

9

文化遺産情報科学研究センター 津村 宏臣 文化情報学部准教授

データでみる同大生の2012年度就職戦線

11

2013年度 大学予算について

13

CAMPUS NEWS

15

容保桜植樹式開催／『吉永小百合 チャリティコンサート・朗読会「第二楽章ヒロシマ・ナガサキ・フクシマ」～平和への願いをこめて～』／日本留学フェア『Japan Education Fair in Turkey』を開催／韓国語版・中国語版『京田辺市生活ガイドブック』完成報告会／脳科学研究科(快風館)公開シンポジウム開催「アルツハイマー病の治療薬開発最前線—タウの焦点を絞って—」／文化系公認団体表彰式／同志社大学の募金事業／新任教員紹介／本学教員の執筆図書紹介

第42回 Neesima Room企画展

18

会津と八重 —八重を育てた故郷— 開催中！

留学生紹介

19

イヤス・サリムさん(グローバル・スタディーズ研究科)

同志社人訪問

20

合名会社まるはら 社長 原 次郎左衛門正幸さんに聞く

MY JOB, MY LIFE ～シリーズ 私と「仕事」～

23

・杉原 元気さん(2006年 工学部機械システム工学科卒業／2008年 工学研究科博士課程(前期課程)機械工学専攻修了)
・立野 舞有子さん(2004年 経済学部卒業)

ANNOUNCEMENT

25

MY PURPOSE

27

同志社大学初の女性体育会委員長

～マネージャーの視点からつくった目標は「みんなで強くなる！」 三谷 和生さん(政策学部 4年次生)

表紙の情景 [烏丸キャンパス 志高館]



2012年10月末に竣工。館名の「志高館」は、創立者・新島襄が記した『同志社大学設立ヲ要スル主意』の文中の言葉に由来する。

地下1階、地上3階建てで、教室・演習室や研究室、学生の自習室などを備える。建物正面は、ゲート(門)のようなアーチ形状となっており、これをくぐると眼下にサンクンガーデンが現れる。館内に光や風を取り込むこの中庭は、ラウンジやカフェとも繋った学生の憩い語らう空間である。

その正面にあるラーニング・スタジオでは、海外テレビ放送などを用いた演習授業や、成果発表などのプレゼンテーションを行うことが可能。また、トークショーや対談などを行う劇場型の公開収録スタジオとしても活用できる。

同志社の誇るべき「知」の砦

人文科学研究所・アメリカ研究所・理工学研究所

同志社大学には長い歴史をもつ3つの研究所がある。

学際的共同研究を行い、将来を担う

若手研究者の育成を進める3研究所は、

同志社大学の「知」をつかさどる拠点として、

大学内外において重要な役割を果たしている。

しかし、その役割や意義、活動内容を

深く理解していると言えるだろうか。

今回の特集では、研究所の誕生の経緯から

現在の活動、今後の展望まで、

それぞれの研究所長と専任教授が語った。



55〜70年におよぶ 長い歩み

庄司 ● 人文科学研究所は、大学における研究所設置を求める戦時下国策決定を受け、1944年10月に「同志社大学研究所」として設置されます。同志社大学と同志社女子大学の専任教員を研究所員とする全同志社の研究所として位置づけられていました。1957年に人文科学研究所に改称。同志社大学の専任教員と研究所専任教員を研究所員とすることに改められ、来年設立70年です。

肥後本 ● 日本におけるアメリカ研究は、1950年頃に、アメリカのロックフェラー財団などの資金援助を得たことで本格的に始まっていきます。京都でも、同志社大学と京都大学共同で「京都アメリカ研究夏期セミナー」を開催。同志社大学はそのセミナーの企画運営において中心的な働きをし、1958年の3月には学内にアメリカ研究所が設立されます。セミナーを支える研究者集団の母体としてスタートしたのがアメリカ研究所の始まりです。

千田 ● 理工学研究所は1959年に誕生していますが、さかのぼれば1890年、創立者・新島襄の科学に対する熱意に共鳴したアメリカの実業家、ジョン・サン・N・ハリスの寄付によって設立された「ハリス理化学学校」が源流にあります。この学校はわずか7年で幕を下ろすことになります

【人文科学研究所】 庄司 俊作 教授



が、1949年には理

工学部の前身である工

学部が発足します。理

工学研究所は、科学技

術に関する研究と教育

を推進する総合理工学

の推進母体として、工

学部を中心に開設され

ました。工学部の各学

科の系列を超えた総合

的な研究の拠点となっ

ていたわけです。専任

研究所員のほか、工学

部の教員全てが兼任研究所員となり、工

学分野の研究活動を広く支援してきまし

た。さらに、大学における自然科学系の教

育を担当しています。

庄司 ● 人文科学研究所は設立の経緯に由来して研究領域の間口が非常に広く、社



人文科学研究所で出版刊行された機関誌など

会一般から政治、文化、経済、経営まで研究対象とします。主な活動である共同研究は学内公募研究会を設置しています。

肥後本 ● アメリカ研究所は、京都アメリカ研究夏期セミナーの運営母体として発足しましたので、その運営を担うことが当初の役割でした。そしてもう一つ、財団の援助などでアメリカ研究に必要な基本図書を集集・所蔵し、日本におけるアメリカ研究の中枢機関として図書館機能を有したことも重要な役目です。研究者でも専門の洋書を手に入れることが困難だった時代に、同志社に行けば目的の本がある。私自身も大学院生の頃にお世話になりました。おそらく60歳代以上のアメリカ研究者で、京都アメリカ研究夏期セミナーでの人的交流やアメリカ研究所の蔵書に関係しなかった人は少ないのではないのでしょうか。現在

も約8万5000冊から9万冊近くの蔵書を所蔵しており、マイクロフォームなどの資料を含め、日本では屈指の資料を保管していると言えるでしょう。

庄司 ● われわれは人文科学研究所の書庫を、大学の「第2図書館」と考えています。研究所でするので、図書は専門性の高い研究書に限られます。収書の方針を決めて収集活動を行ってきました。現在は日本・東アジアの地域研究、近現代史が研究所の目指す方向です。そのことを踏まえて、資料として自伝・評伝、地方史（自治体史）、図書として研究活動の方向性に沿って系統的に集めています。震災や格差・雇用に関する社会問題の文献・資料も意識しています。現史資料も充実しています。点数は約18万7000冊、所蔵雑誌の種数は8000種以上、所蔵新聞種数は454種。所蔵する原史資料の目録も、72冊にのびります。閲覧者の数も毎年1000人を超えています。学内外の研究者から「人文研の書庫は素晴らしい」とお褒めをいただいています。

学部の垣根を越えて 共同研究を推進

千田 ● アメリカ研究所が学外の研究者に大きな影響を与えたのに対して、理工学研究所は、どちらかと言えば学内にフォーカスを当てた活動を行っています。

同志社の誇るべき「知」の砦

～人文科学研究所・アメリカ研究所・理工学研究所

【理工学研究所】 千田 二郎 所長



京田辺キャンパスでは2008年に工学部が理工学部へ改組し、新しく生命医科学部とスポーツ健康科学部が誕生しました。2005年に文理融合の文化情報学部、2009年に文学部から独立した心理学部、さらに2011年にはグローバル・コミュニケーション学部が開設され、現在、理工系と文理融合学部を中心とした6学部が京田辺キャンパスにあります。そうした流れの中で、理工学研究所では、従来は工学部の教員が研究所



創造科学教育夏期研修の1コマ

員を務めていたのですが、2008年から生命医科学部が加わり、今年度からは脳科学研究科も参加して2学部1研究科で運営する組織になっています。そこで研究しているのは、理工学部や生命医科学部だけでなく、他の理系学部、文系学部まで含めた学際的な総合科学です。自然科学史、先端科学技術、環境エネルギーなど大きく5つのフィールドに分け、2年間のチームで部門研究を展開しています。また、若手研究者への研究助成も行っており、毎年15名ほどが特定のテーマで研究しています。

そして、特筆すべきなのは、毎年夏に加藤科学振興会軽井沢研究所で行われている「創造科学教育夏期研修」です。1957年にフエライトの発明者である故加藤与五郎同志社大学名誉文化博士が科学技術分野における創造力の開発を指導する場として始めたものですが、加藤先生の没後も工学部の卒業生で日本を代表する半導体研究者の山崎舜平氏ら

の支援によって支えられ、現在まで途絶えることなく続いています。この研修も理工学研究所が担っている役割の一つです。

庄司 ● 人文科学研究所では専任教員を配置し、3年サイクルの多様な部門研究（共同研究班）を組織して、研究を進めています。近年では、近代日本キリスト教史や京都地域研究といった同志社ならではの伝統的分野はもとより、諸世界の新しい潮流を反映し、現代日本社会や近代世界の特徴を捉えようとする挑戦的な研究が繰り返されています。この4月には19の研究會が立ち上がりました。一般的に研究所の「命」は、研究業績です。研究所は機関誌として『キリスト教社会問題研究』（年刊）と『社会科学』（季刊）を発行、研究成果を発表しています。現在、前者は61冊、後者は97冊にのぼります。共同研究の成果がまとまれば研究所叢書として出版されます。研究報



同志社アメリカ研究夏期セミナーの様子

【アメリカ研究所】 肥後本 芳男 所長



告も同様のものです。前者はこれまで45冊、後者は24冊が出版刊行されました。その中には著名な賞を受賞したものも何冊か含まれます。研究成果の社会還元を目的として開催する公開講演会等の記録を収めるブックレットは45冊刊行しました。また、研究所専任教員の個々の研究業績をみても、大変優

れた業績を上げています。入所当時、所内には研究に対する良い意味での緊張感が見なされていたことが思い出されます。大げさな表現は嫌いですが、全体として輝かしい研究成果を残してきたと言って良

いのではないでしょうか。人文科学研究所は「同志社アカデミズムの拠点、砦」と言っても過言ではないと思います。

千田 ●理工学研究所でも「理工学研究報告」という理工学部、生命医科学部、脳科学研究科の各先生方の研究レポートを年に4回、季刊で出しています。また毎年12月には研究発表会を開催し、専任研究所員の研究、部門研究、研究助成を受けた方々の研究、さらに理系関連の種々の研究センターからの報告などを行っています。

肥後本 ●アメリカ研究所の場合は、研究成果を『同志社アメリカ研究』という雑誌での掲載、あるいは単行本の形で発表で還元するようにしています。また、アメリカ研究所でも学内の様々な先生方のリエゾンと共同研究を行う部門研究を立ち上げています。3年を一区切りとして、



5、8の部門研究が動いています。もともとアメリカ研究は文学と歴史学が中心の分野でしたが、1980、90年代に入つて学問が多様化したのに伴い、日米関係や最高裁判所の役割についてなど、幅広いテーマを持った研究者グループが継続的に研究を行っています。

教養と活力のある 若い研究者の育成

千田 ●研究所の意義という点で考えてみたいのですが、私は学部の独立性が高い中で、各学部を横断する形で学際的な研究を行う機関であるというのが、3研究所の一つの大きな意義ではないかと思っています。例えば、私の専門である噴霧・燃焼工学や環境エネルギーの分野では

今、理工系、自然科学系の教育だけでは十分にフォローできなくなっており、社会科学系の社会規範や規制、人文科学系のコミュニティの形成や国際的教養などを含めた幅広い教育が必要になっています。これからは科学技術だけでなく、貧困や宗教、民族問題なども理解した科学技術者を育てていかななくてはならない

と思うのです。

肥後本 ●文理融合の教養豊かなプロフェッショナルを育てるということですね。アメリカ研究所では、新しい動きとして昨年度から3年計画で「同志社アメリカ研究夏期セミナー」という、新たなセミナーのホストをしています。昨年は7月に「アメリカ衰退論とアメリカ研究の将来」というテーマで行いました。第2回の今年は「人種とエスニシティの再考」をテーマに行う予定です。研究所発足のきっかけとなった「京都アメリカ研究夏期セミナー」との大きな違いは、研究者の専門家会議という側面以上に、若い研究者の登用と交流が中心という点です。以前のセミナーにはアメリカ研究の中核を担う日本の研究者を養成するという役割があったのですが、現在はむしろ持っているリソースを利用しながら、今後のアメリカ研究を担う若い人たちが交流を図れる場を提供していきたいと考えています。

庄司 ●人文科学研究所の課題を申し上げる前に、同志社大学における研究所の位置づけについて考えたいと思います。人文科学研究所には、一定のパーマネントな専任教員が置かれています。そのことは、同志社大学の雅量の大きさ、「研究重視」の姿勢を示すものであり、学内外に誇って良いことです。専任教員がいるかどうかは、研究所の活動にとって決定的な意味をもちます。輝かしい研究業績や、特色

のある収書で高い評価を得ている大量の図書資料の集積、さらに研究所はこれから国際学術シンポジウムを開催する計画をもっていますが、その企画実行についても、専任教員がいるから進められたと言っても過言ではありません。聞くところによると、現在、文部科学省では全国の大学の中で「研究大学」を選定する作業を行っているようです。研究大学に選ばれるかどうかは、同志社大学の将来を大きく左右します。大学が「研究重視」を方針とするのなら、人文科学研究所がこれまでに以上に生き生きと活動できるよう学内に位置づけられることは不可欠です。さて、人文科学研究所の今後の課題について申し上げますが、全国の大学では、付置研究所の教員は研究を生かして大学院生の指導をすることが普通です。しかし、本学の研究所の専任教員は現状において大学院教育に携わっていません。研究所は若い研究者や大学院生が出入りして初めて活性化するもの、力を発揮するものです。大学院教育にタッチすることは研究所にとって大いに意義がある一方、研究者を目指す大学院生にとってもプラスになります。教育研究資源の有効活用を考え、大学は賢明な方法をとっていただきたいですね。

肥後本 ●アメリカ研究所は開設以降の過程を見ても、どちらかと言えば確立された研究者に向いてきました。研究所という名称から致し方ないことかと思うの

同志社の誇るべき「知」の砦

～人文科学研究所・アメリカ研究所・理工学研究所

ですが、幸いにも今年から烏丸キャンパスに拠点が移っています。そこにはアメリカ研究科の流れをくむグローバル・スタディーズ研究科があり、今年からグローバル地域文化学部という新しい学部も開設されました。多くの学生が出入りする環境で、これからはアメリカ研究所も研究者だけに目を向けるのではなく、学部生も視野に入れた活動を模索する必要がありますと思います。グローバル地域文化学部には、アメリカ大陸全体を勉強できるコースもあります。一般学生もアメリカに関する書籍が充実した図書館機能を、ぜひ有効活用してほしいですね。

研究所を活用して、「知識」を「知恵」に

庄司●同志社大学は研究のグローバル化を進めています。しかし、研究のグローバル化は研究対象のグローバル化ではありません。今後、若い研究者や大学院生が国際的に交流する機会が増えますが、そのキープポイントになるのが日本研究だと考えています。本学で学ぶ留学生も増加するでしょうが、彼ら彼女らは自国のこと、ヨーロッパやアメリカのことを勉強するためにやって来るものではありません。日本、東アジアの国々のことを勉強するために来るのです。研究のグローバル化の中で、東アジアを視野に入れた日本研

究を目指す人文科学研究所の役割は増していくと思います。その取り組みとして、人文科学研究所では国際学術シンポジウムを今年から開催します。研究所の活動の方向性に沿って「日本・東アジアの地域研究、近現代史」の大枠のテーマのもと、毎年開催テーマを決め、国内外の研究者を集めて国際的な討論を行います。今年は「磁場としての東アジア」(仮称)というテーマで秋にリレー形式で4つのシンポジウムを開催します。同志社大学で勉強する留学生を含む多くの大学院生にとっても良い刺激になるのではないのでしょうか。

千田●理工学研究所の今後の責務は、母体を2学部1研究科からもう少し広げて、京田辺キャンパスの6学部の連携機能をつくり、総合力を発揮できるようにリネージュすることだと思います。さらに言えば、同志社大学が総合大学としての強みを発揮していくためには、今出川キャンパスと京田辺キャンパスが連携していかなくてはなりません。理工学研究所はこれまで文系の先生方といろいろな部門研究を行ってきいていますが、これからは社会科学、自然科学、そして国際というキーワードのもと、国際的自然教養人の育成のために、今出川キャンパスの人文、社会、グローバル・スタディーズとのより緊密な連携、共同研究の拠点形成を進めていきたいと思っています。あくまでもサイエンスがベースになりますが、感性に訴える理

工学、あるいは心理、芸術、人種、教養を含めて人に優しい理工学、グローバルな理工学といったものをアイデンティティとしていきたい。そのためにも、3つの研究所が連携して、同志社独自の、同志社でしかできない学際的な研究をしていくことが重要なのではないのでしょうか。

肥後本●研究所には豊富な知的資産・資源がありますから、学生の皆さんにはそれを貪欲に吸収する姿勢をもってほしいです。そしてそれらを活用して多くの知識を得て、蓄積した知識によって知恵を生み出していただくことを期待しています。

庄司●近年、同志社大学の教育環境は飛躍的に向上しました。ぜひ、その環境を存分に利用して、しっかり学んでいただきたい。特に留学生を含む大学院生には、人文科学研究所を多に利用して馴染みになっていただきたい。研究所には多くの研究会がありますので、研究会にも参加し、武者修行をしていただきたいです。期待しています。



政治学のレンズを使って、権力に まつわる諸現象を視る

意見を主張し合い
衝突することもある

ゼミを訪ねて特徴を聞くと、「アットホームでゼミ生の仲が良くて」という声が多く返ってくる。だが、このゼミは少し違う。

政治学科にある15ほどのゼミの中でも規模は最も大きい部類に入る。この日、ゼミに出席していた3・4年生は35人。法学部のゼミは2年生の秋学期からス



森 裕城
【法学部教授】

タートし、ほとんどが卒業まで同じゼミ仲間とともに過ごす。指導する森裕城教授は、このように話す。

「2年半同じメンバーで過ごすのは、小学校を含めても日本の教育制度では経験することのない長さです。その長い付き合いの中から、自ずと内面が出てきます。お互いの本当の気持ちを出し合い、言いたいことを言う。良い関係を保つために我慢するのではなく、自分の意見を主張する。学生にはいつも言うのですが、トラブルを回避してはいけません。逆に私はトラブルに向き合う人を歓迎します。トラブルを避けることは誰でもできますが、それを『きっかけ』にしてこそ政治学を学んだことが生きてくるのです」

学生たちは、教授自身がトラブルを仕掛けているとさえ言う。実際、この日の授業では、ゼミ長を務める4年生の小山創さんが「いじめ問題の展開と政治過程への影響」と題した卒業研究報告を行ったのだが、発表内容に対する教授の質問は手厳しく、曖昧な返答を許さない緊張感が漂う。和やかな雰囲気での授業が進むゼミとは、少なからず異質だ。

そのようなゼミで、森教授が基本としているのは「法学部の授業だけでなく日々の

生活も含めて、自分が体験してきたことを言葉に置き換えていく」こと。「今の学生は、感受性は豊かなのですが、体験に言葉を当てはめていくことが苦手なため、感じ

たことをなかなか言い表すことができないのです。それぞれに抱えた課題を学問に触れながら言語化し納得していく。私はそれを応援しているつもりです」と言う。



政治的でないものの中に政治を見る

政治学科のゼミは大きく3種類に分かれる。国際関係、歴史思想、そして森ゼミが属する現代政治分析。森ゼミ全体の大きなテーマは「権力にまつわる諸現象の分析」だ。

「政治学のレンズを使えば、様々な事象が権力と不可避の関係にあることに気づきます。現在の日本は『改革の時代』に突入





していますが、必ずしも全てが必要な改革ではないように見えます。そこには誰かの利害が強く反映されているかもしれない。『みんなのため』と言いつつ、実は『みんなのため』ではない。そうしたことを総点検していく中で、日本政治のあるべき姿を考えようというのが、私のゼミです」

政治学と名前はつくが、狭い意味での政治だけを扱うのではない。一般の人が政治だと思わない現象の中に政治的なものを発見することが命題だ。4年次の終わりに提出する卒業論文のテーマも様々。福祉、文化、スポーツ、タイトルを見ただけでは政治学の研究には見えない。しかし、ゼミで政治学のレンズを通してあらゆる物事を見る目を養うことにより、どんな事柄にもそこには必ず「権力の問題」が関係していることに気づくようになる。

森ゼミは、普段の授業は各学年で行い、半年に1回ほど全員が集まるイベント(勉強会)がある。ゼミは普段の勉強とイベントに向けた準備が両輪で進行

する。3年次は政治学に関する専門的な文献を読み、知識を吸収することにウエイトを置く。3年次の秋学期から4・5人の班編成で1つのテーマを設定して研究を行う。これを準備期間として、4年次は1年間を通して1人1つのテーマの元に、卒業論文につながる研究を進めていくことになる。

緊張感のあるゼミとはいえ、

和やかにゼミ内でコミュニケーションをとれる懇親のための催しも欠かさない。毎夏、海の民宿を借りきって行う合宿だ。そこで人間関係をスムーズにし、秋には滋賀県の同志社びわこリトリートセンターで3年次生による班単位での研究報告合戦を実施。4年次生が進行役を務め、2年次生の投票で優秀を競う。

大きな政治の動きを見てきた学生たちは

今のゼミ生は、中学生の頃が「小泉ブーム」。政治が盛り上がりつつある時期を知っている学生たちだが、政治学科を選択した理由を聞くと、いわゆる政治に関心があつたという人は少ない。

自ら進んでゼミ長に名乗りを上げた小山さんは「法律という決まり事を学んでいくより、その前段階の社会の複雑さや多様性を学びたいと思いました」と、同じ法学部でも法律学科ではなく政治学科を選んだ理由を語る。「最初は世の中の動きがわかる経済学部を志望していたのですが、高校3年生の時に政治・経済の授業を受けてから、政治なら社会問題から環境問題までいろいろなことが勉強できると思うようになりました」と、伏木一見さん(3年



次)は学びの対象が広いことを理由に挙げた。

今、政治学を学び、どのようなことに最も関心を寄せているかを聞くと、堤真紀さん(4年次)は、自身の就活体験から「建前としては男女平等で女性にもチャンスがあると言われていたのに、実際は男女の差を感じます」と、女性の視点から見た社会を卒論のテーマにする考えた。また、森教授は総選挙の得票分析を長年のライフワークとしており、ゼミ生が手伝うことが伝統になっているという。中平真璃那さん(3年次)の「選挙制度の1票の格差是正に関心がある」という答えは、この伝統が背景にあるのだろう。

政治学はそのレンズを使って見ることで、既知の事象の中に新たな気づきや発見を生む。「政治学を学ぶことで、自分の経験からの視点に加えて、柔軟で多角的な見方ができるようになりました」と語るのは弟子丸悟さん(3年次)。

卒業後の進路も気になる。公務員試験の勉強をしている本林省吾さん(4年次)は行政官志望。「権力を行使する立場とも言える側から、ゼミで学んだ政治学の考え方を活かしていければ」と話す。東日本大震災の被災地・宮城県出身の伏木さんは、将来の道として政治家も視野に入れていると言う。「教え子で政治家になった人はまだいない」という森ゼミから、もしかしたら初めて政治に携わる人が誕生するかもしれない。



文化遺産情報を記録・保存・管理する 世界標準づくりを目指す

文化遺産情報科学研究センター 津村 宏臣【文化情報学部准教授】

2009年11月に誕生した「文化遺産情報科学研究センター」は、様々な地域や民族に帰属する多様な文化遺産について、その記録・保存のための情報化や計測技術の開発を進めるとともに、多くの人々に文化遺産情報から再構築される“世界”を公開し、学ぶ機会に資することを目的に活動している。2013年度に推進する予定の調査・研究は、「小豆島町“石の文化”世界遺産化プロジェクト」「エジプト・ナイルデルタ古代遺跡・集落調査研究プロジェクト」など14にのぼる。同志社大学着任以前から世界の文化遺産の調査・研究を手がけ、その実績が高く評価されている津村宏臣センター長(文化情報学部准教授)に、センターの活動と意義などについて聞いた。

文化遺産情報の 標準化を日本が担う

2009年に外務省から国際研究協力拠点準備の要請があったことが、当センター開設のきっかけです。当時、ユネスコ基金が行っている国際協力の対象国に中東のオマーンがあり、私が以前から、エジプト、メソポタミア、インダスの世界三大文明をつなぐ存在としてオマーンの海洋民族を研究していたことから、同志社大学に白羽の矢が立ったのです。

世界の先進国の多くには文化遺産の情報を統括する機関がありますが、残念ながら日本にはありません。文化庁や文化財研究所では文化遺産情報のアーカイブ化が遅れており、当センターはその意識付けを行う大きな役割を担っています。情報を集積管理するにあたって「どのような情報の集め方をすればいいのか」「どのような情報をストックすればいいのか」が問題になります。そこで私たちは文化遺産のある場所へ赴き、研究者を集めて研修・セミナーを開く中で、収集・分析するためのツールの使い方や技術情報化の理念を説明しています。遺跡であれば発掘、分析し、報告書をつくるという流れになるのですが、これまでは報告書の質や情報の精度は、個々の研究レベルによってばらつきがありました。そこで、何十年経過してもそのデータが使えるように、



ウズベキスタン・カンガ遺跡での現地セミナー

トルコのサラット・ジャーミー・ヤズ遺跡での発掘調査

数十年先も変わらないであろう最低限度の情報化の基準をつくっていく活動を、今私たちは行っています。

その1つが情報標準の実践的整備。例えば、私の手元にあるのは15万年ほど前の石器ですが、この石器についてどのような情報を記録するか、約束事は何もありません。単なる15万年前の石として保存するところがあれば、写真も撮って置いておくところもある。日本のように、図を描いて関連情報をストックしておく国もある。それぞれが研究者のレベルに応じて、個々の視点で記録しているというのが現状なのです。そこで、世界的な情報標準が必要です。文化遺産に関する情報化のスタンダードを、日本がイニシアチブをとって整備していく。当センターがその中心になることができます、と考えています。

小豆島を 世界文化遺産に

また当センターは、本学では研究対象とされることが少なかった中東、アフリカ、インド、ロシアなどの国々にコネクションを

もつ教員同士をつなぐ母体になるという役割もあります。20人ほどいる研究センターのメンバーの中で、文化情報学部教員は3分の1。残りは他学部の先生、学外の賛同者、文化庁やその外郭団体などの人で、人脈が広がっていることを実感しています。

個々の先生方の研究をまとめる一方で、センター独自の活動にも重点をおいています。その1つが「小豆島町」石の文化「世界遺産化プロジェクト」です。香川県小豆島町と協力し、小豆島を中心とした地域が「東瀬戸内海洋文化景観遺産」として2020年をめどに世界遺産暫定リストに掲載されることを目指しています。そこ

には、世界遺産にノミネーションする時の記録の仕方を統一する狙いがあります。世界遺産を情報化する際のスタンダードをつくることは、世界レベルで進めている文化遺産に関する情報の標準化と根幹は同じです。

さらに、私が問題だと感じていることは遺跡の調査方法と後世への残し方です。例えば、日本では5000年前の集落が発見されたら、5000年前の形に戻そうとします。保存修復と言われるある種の理念です。しかし、それは間違っているのではないというのが、私たちの主張です。文化遺産の修復は、人々と文化遺産が共存してきた

現在までの証をゼロにする行為なのです。壁画にカビが生えたからといって解体して絵を元の姿に戻すことは、見方によっては新たな破壊に過ぎません。それを防ぐために私たちにできることは、一定のルールに従って記録を丹念に取る、劣化していく姿を丁寧に記録していくことです。劣化していくものをありのままに記録する情報標準を、日本から世界に広げていきたい。そのためには、まず日本の意識を変えないといけません。本来は国の事業として行うべきことに取り組んでいるという意味でも、当センターは日本で唯一の研究機関だと言っていると思います。

「遺産学」の先陣を 切る文化情報学部

この分野では、測量などで計算が欠かせないため、情報学の素養と同時に理系の技術も必要になります。文理融合の形でアプローチしなければ、文化遺産を情報としてストックすることはできません。そこで重要な役割を担っているのが、本学の文化情報学部です。当センターでは文化情報学部と連携して、毎年10人ほどの学生が調査活動を行っています。昨年の4年次生はエジプト、メソポタミア、その前の4年次生は

アンコールワットを調査しました。そのような意味では、文化情報学部は研究の先陣を切っていると言っているかもしれません。

研究センターは、2013年度で5年間の活動期間が一区切りとなります。残りの1年間、小豆島のプロジェクトで世界遺産登録に名乗りを上げるところまで進めたいですね。純粋な学術ベースでゼロから積み上げてきたプロセスを経て、世界遺産化に大きく一歩を踏み出せれば、5年間の成果の1つにできると思います。



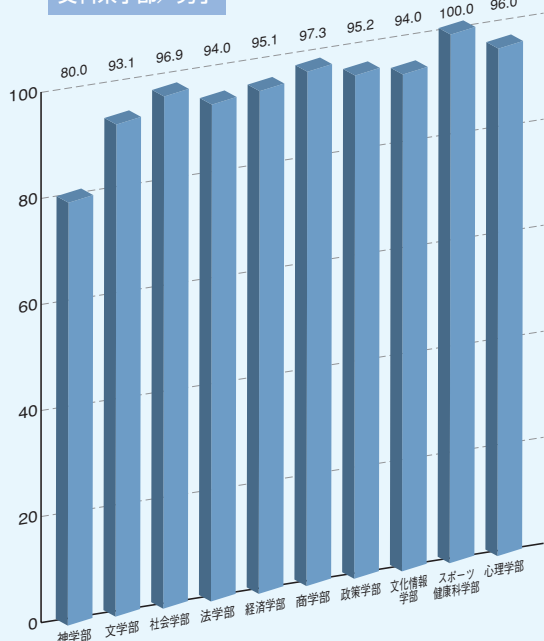
データでみる 2012年度就職戦線

2012年度の就職状況は、厳しい就職環境にもかかわらず就職率96.4%と高い数字となりました。その一方で、社会のニーズが多様化する中、企業は今後ますます、外国語運用能力、情報活用能力、人間関係を結ぶコミュニケーション能力、さらには問題発見解決能力など、自ら考え行動し成果を上げることができる潜在能力を持った自立した人材を求めています。このような変化の中で、皆さん自身がより高いキャリアを形成するためには、目的を持ち勉学やクラブ活動に充実した大学生活を送ることや、**インターンシップ(注1)**など学外の体験学習を通じて社会の動きを理解することが大切になります。

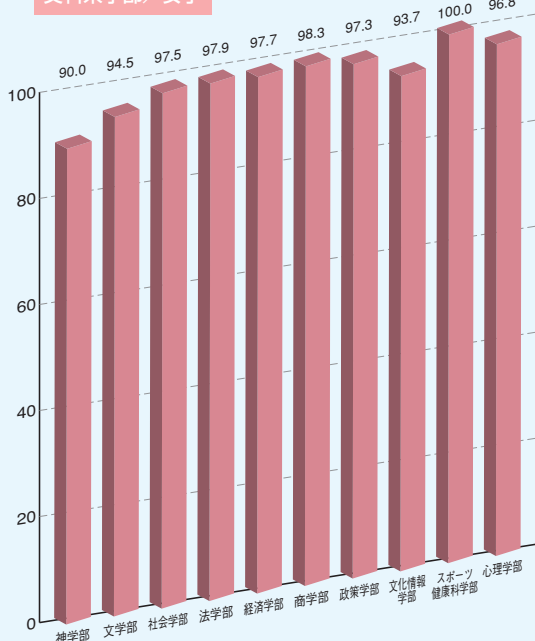
■就職率

就職率 = $\frac{\text{就職者数}}{\text{就職希望者数}}$

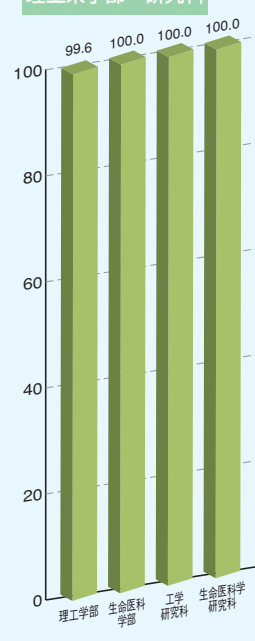
文科系学部／男子



文科系学部／女子



理工系学部・研究科



■主な就職先と人数

会社名と人数

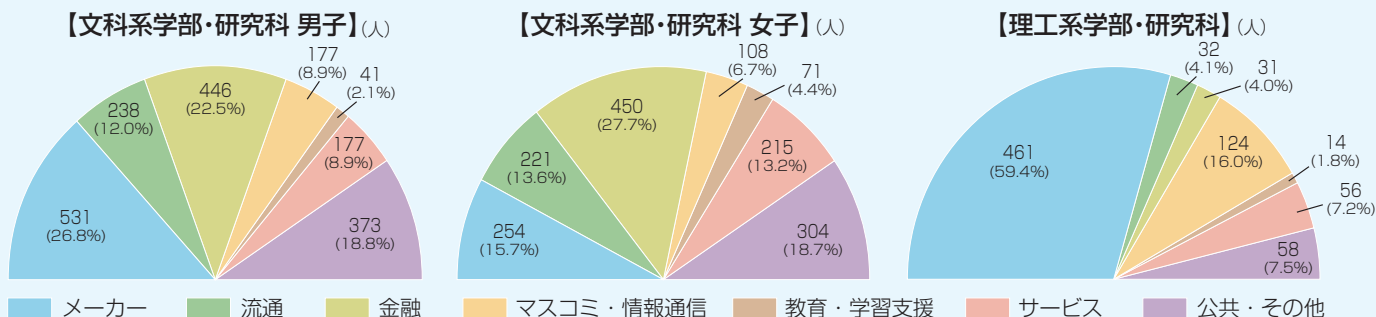
文科系

株式会社三井住友銀行	57	日本郵便株式会社	13
株式会社三菱東京UFJ銀行	43	アメリカンファミリー生命保険会社	12
日本生命保険相互会社	38	株式会社大垣共立銀行	12
株式会社京都銀行	36	みずほ証券株式会社	12
東京海上日動火災保険株式会社	33	株式会社ワークスアプリケーションズ	12
株式会社りそなホールディングス	32	あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	11
積水ハウス株式会社	27	三井住友信託銀行株式会社	11
株式会社南都銀行	27	大和ハウス工業株式会社	11
京都市	23	株式会社ニトリ	11
みずほフィナンシャルグループ	22	楽天株式会社	11
イオンリテール株式会社	22	株式会社商工組合中央金庫	10
京都中央信用金庫	21	住友生命保険相互会社	10
株式会社ゆうちょ銀行	21	第一生命保険株式会社	10
株式会社滋賀銀行	19	パナソニック株式会社	10
野村證券株式会社	19	三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	10
京都府	18	株式会社伊予銀行	9
株式会社大和証券グループ本社	17	株式会社関西アーバン銀行	9
SMBC日興証券株式会社	17	株式会社紀陽銀行	9
富士通株式会社	17	京都府 警察(警察官・警察事務 等)	9
国税専門官	16	株式会社十六銀行	9
国家公務員(一般職)	15	全日本空輸株式会社	9
ソフトバンクグループ	15	ダイキン工業株式会社	9
株式会社インテリジェンス	14	日本航空株式会社	9
京都信用金庫	14	明治安田生命保険相互会社	9
三井住友海上火災保険株式会社	14		
三菱電機株式会社	13		

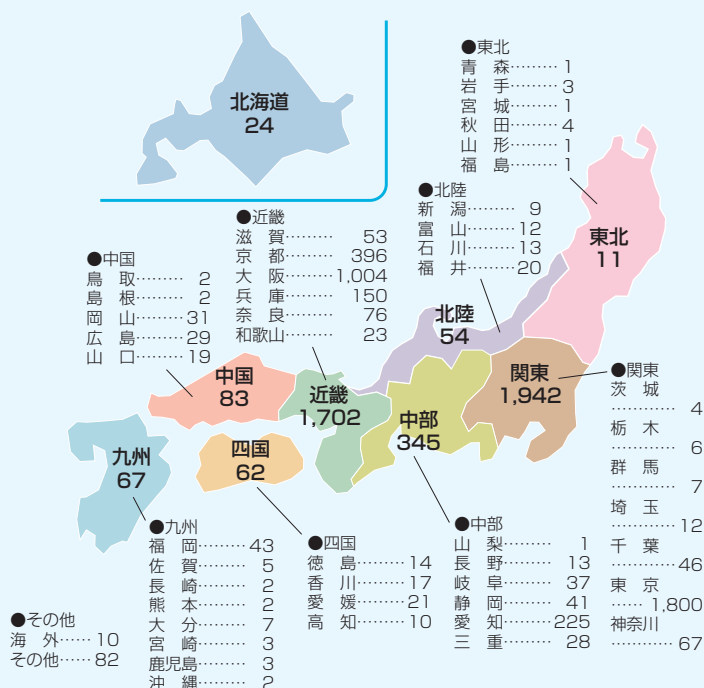
理工系

株式会社日立製作所	13	東海旅客鉄道株式会社	4
パナソニック株式会社	10	株式会社ニトリ	4
トヨタ自動車株式会社	9	株式会社村田製作所	4
株式会社野村総合研究所	9	ローム株式会社	4
三菱電機株式会社	9	みずほフィナンシャルグループ	3
ダイキン工業株式会社	7	アイシン・エイ・ダブリュ株式会社	3
三菱重工業株式会社	7	株式会社エクセディ	3
株式会社エヌ・ティ・ティ・データ	6	株式会社大林組	3
関西電力株式会社	6	株式会社オービック	3
株式会社小松製作所	6	花王株式会社	3
株式会社島津製作所	6	株式会社京都銀行	3
株式会社東芝	6	京都中央信用金庫	3
キャノン株式会社	5	株式会社京写	3
KDDI株式会社	5	積水化学工業株式会社	3
スズキ株式会社	5	ソフトバンクグループ	3
株式会社LIXIL	5	トヨタ車体株式会社	3
株式会社デンソー	5	株式会社豊田自動織機	3
日本電気株式会社	5	大日本印刷株式会社	3
日産自動車株式会社	5	日本特殊陶業株式会社	3
西日本旅客鉄道株式会社	5	日本ゼオン株式会社	3
株式会社日立システムズ	5	野村證券株式会社	3
本田技研工業株式会社	5	株式会社堀場製作所	3
川崎重工業株式会社	4	株式会社マキタ	3
株式会社ケイ・オプティコム	4	ヤンマー株式会社	3
株式会社サイバーエージェント	4	ヤフー株式会社	3
中部電力株式会社	4		

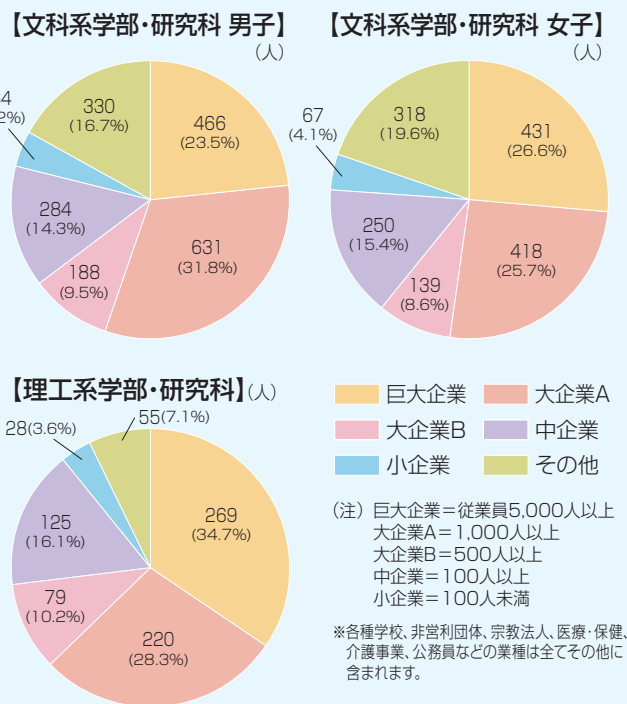
■業種別内定状況



■地区別内定状況 (人)



■従業員規模別内定状況



※データは2012年度確定数

(注1) インターンシップ

インターンシップは、学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うことです。本学では正課科目「キャリア形成とインターンシップ」を開講しています。学生が大学で学んだ社会の諸課題と、その問題解決に向けての考え方、専門知識・理論との統合をはかり、その経験を通じて、より高い学習意欲を喚起しています。同時に、仕事、職業に対する興味・関心を高め、自らの適性や適職を考える大きな契機となることを願っています。その他にも企業主導型(公募制)のインターンシップもあり、キャリア支援システム「e-career」(<https://career.doshisha.ac.jp/>)でその一部を紹介していますので参考になしてください。

参加者の感想



このインターンシップの経験は非常に有意義なものでした。今振り返ってみると、参加してよかったという思いに満ちあふれています。実際に会社でインターンシップを行うことで、自分と社会人との違いが明確にわかり、自分がまだ学生としての甘えがあると深く感じることができました。また、この実習の中で自分にいかに知識がなく、相手に伝える力が欠如しているかわかったことも大きな成果です。

自分がどのような職に就くようになったとしても、大切なのはその環境の中で自分が何をすべきか何ができるのか考え、実行に移していくことが重要だと改めて気づくことができました。企業分析なども大事ですが、それよりも今の時期に自分を見つめ直し成長できる機会を、インターンシップ研修を通じて得ることができたので、これからの就職活動を含め学生生活に活かしていきたいと強く思うようになりました。

毎日が新鮮な出来事で溢れていて、自分が知り得なかった世界にどんどん踏み入っていく感覚が楽しかったです。全部で12日間あった実習ですが、あっという間でした。消極的な自分を積極的な自分に変えていこうと思い参加したインターンシップでしたが、その目的も達成できたように思います。

実習の経験を活かして、もう一度「自分は将来何をしたいのか」、「どんな企業で働きたいのか」、「どのようなキャリアを歩むのか」ということを考え直したいと思います。これらの問いに関して私は自分なりに考えてきたつもりでした。しかし、今回のインターンシップで様々な経験をすることで、自分の将来に対する甘さを認識しました。

今回の体験は絶対に無駄ではないと言い切れます。いろんな体験ができたこともそうですが、何よりいろいろな方と出会い、会話をすることが貴重な経験となりました。普段話さないような方と話すことで、その人の考え方に触れ、自分の価値観を広げることができ、とてもよかったです。

2013年度 大学予算について

財務部 経理課

進行する少子化の影響で定員未充足の私立大学が増加する中、自然災害の発生や国際情勢の不安定化、先行きの見えない経済状況などが重なり、こうした流動的な社会情勢は大学の経営に一層の厳しさをもたらしています。このような環境の下、本学は、建学の精神に基づく個性豊かな私立大学として、質の高い教育研究活動を推し進め、国際化、高度情報化の進展に寄与する多様なニーズに対応し、社会の負託に添えていく必要があります。

2013年度は、国際舞台で活躍できる人物の育成を目指す「グローバル地域文化学部」を開設しました。大学院教育においては、「博士課程教育リーディングプログラム」の採択を受け、高度専門職業人養成のためのプログラムを展開していきます。また、国際化を一層推進するために、継続的に留学生の受入促進に取り組み、新たに採択された「グローバル育成推進事業」を通して、留学を中心とした学生の送り出し促進にも努めます。

2013年度予算では、京田辺校地における学習環境の整備やスポーツ健康科学部の施設拡充、複合的研究施設建設や宗教教育施設建設などの諸事業を進めていきます。その一方で、経常的経費については、引き続き抑制に努め、既存の施設設備の整備は、特に緊急性の高い事業を優先的に計上します。また、将来の整備事業に充当する第2号基本金組入計画を新たに策定し、計画性を重視して限られた財源を効率的に配分することを大原則に予算を編成しています。

収入の部

学生生徒等納付金は、新設学部や学部の年次進行に係る収納があるものの、当初予算では新入生を入学定員通りで見込んでいるため、前年度に対して4億7千万円減の308億8千万円を計上しています。これ以外の収入については、確実に収入が見込めるもののみを計上しているため(主な増減理由は表1に注記)、**帰属収入合計は384億4千万円**となり、前年度予算に対して16億4千万円の減収となっています。

第2号基本金取崩額は大規模な建設工事や研究装置等の取得資金に充当するもので、2012年度は今出川校地整備事業への充当額を計上していましたが、事業終了に伴い、2013年度は研究装置の取得資金6千万円のみ計上しています。

当期固定資産除却額27億円は、固定資産(機器備品)の償却期間完了によるものです。

特定支出準備金取崩額の内訳は、国際連携推進事業

など使途特定準備金の取崩額です。

収入の部合計は414億1千万円となり、前年度予算に対して51億5千万円の減少となります。

支出の部

人件費は、退職者数を上回る採用者数の増員並びに補助金事業の計画に基づく増員などにより、前年度に対して4億4千万円増の199億1千万円を計上しています。

事業費は、表1では教育研究経費(減価償却を除く)、管理経費(同左)、施設関係支出、設備関係支出および予備費に仕訳されていますが、全体では対前年度比81億6千万円減の総額184億2千万円を計上しています(事業別予算額は表2参照)。**経常的経費**については前年度予算を基準として計上し、**管理経費**については一部の重点項目を除いて極力節減を図っていますが、**建設事業**では今出川校地整備事業が終了したことにより、前年度と比較して大幅に減少しています。

徴収不能引当金繰入額1億5千万円は、学費および学資貸付金の徴収不能見込額に対する引当金に繰り入れる額です。

繰入金7億円は、法人内諸学校への資金調達額などを計上しています。

第2号基本金組入額12億円は、大学教学施設設備整備資金として理事会で承認された組入計画に基づくものです。

支出の部合計は449億6千万円となり、前年度予算に対して63億6千万円の減少となります。

収支差額の部

収入の部合計から支出の部合計を差し引いた**当年度消費収支差額は、35億5千万円**の消費支出超過となります。消費支出準備金を取崩すことにより、最終的には27億6千万円の消費支出超過となります。

(本文中の金額については1千万円未満を四捨五入しています)

主な新規事業

教育研究条件の充実	教育研究環境の整備	
外国語能力テスト等	情報教室教卓設備改修工事	大型計算機システム改修業務委託
高大連携教育事業	教室マルチメディア環境整備	統合運用管理システム機器増設
司法研究科の教育支援 (アカデミック・アドバイザー制度充実、判例法令DB整備他)	授業・講演会・シンポジウム対応機器導入	教職員ポータルシステム構築
	TV会議システム新設	東京・福岡での入学試験実施、春期入学試験の実施(司法研究科)
相互啓発による創造的学力カリキュラム (社会学部・社会学研究科)	AVシステム更新・整備	
社会福祉教育・研究支援センター事業 (社会学部・社会学研究科)	教室および貸出用マルチメディア機器の整備・更新	施設設備の整備および維持管理
企業法務プロフェッショナルの育成(法学部・法学研究科)	AV教卓ICカード化によるキーレス利用の実現	防災用備蓄品の整備
入学前準備教育・事前学習プログラム (商学部・商学研究科)	遠隔講義システム新設及び更新	アーモスト館及び「Doshisha Global Archives」の業務委託
ソーシャルイノベーターの養成 (政策学部・総合政策科学研究科)	e-class システムリプレイス	光塩館MB1電動書架設置
教育・研修プログラムと地域公共人材大学連携事業 (政策学部・総合政策科学研究科)	貸出ノートPCシステム機能拡張	今出川キャンパス発掘調査出土物の整理作業
政策提案能力を養う理論と実践との交流教育事業 (政策学部・総合政策科学研究科)	STATA導入	烏丸キャンパス発掘調査報告書作成
文理融合型教育による課題解決能力の育成事業 (文化情報学部・文化情報学研究科)	学修支援システムDBサーバ他機器更新	
研究センター連携型オープンフィールド教育事業 (心理学部・心理学研究科)	図書館入門編講習会の業務委託	建設事業
今出川校地金曜チャペル・アワー	自動貸出返却装置の導入(図書館)	弘風館・明徳館・至誠館 耐震改修工事(今出川)
ラーニング・コモンズ関連事業(学習支援・教育開発センター)	2校地間移動無料シャトルバス導入	ハリス理化学館 整備工事(今出川)
PBL推進支援センター事業		彰栄館・講武館 改修工事等(今出川)
先端的教育研究拠点の基盤整備	企画広報活動・管理運営	扶桑館・臨光館 昇降機改修工事(今出川)
URA制度の導入	新設学部等の広報	バーバースロード舗装整備工事(今出川)
	既存学部・大学院等の広報充実	ポート部合宿所 改築工事
	ラジオ番組による広告	磐上館 増築工事(京田辺)
	その他企画広報事業の充実(ビジネス誌による広報企画等)	事務室配置変更工事(京田辺)
	公式Webサイトリニューアルに伴うシステムセキュリティ診断	知真館2号館 教室改修工事(京田辺)
	全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム開催	複合的研究施設 建設工事(京田辺)
	機関別認証評価申請	宗教教育施設 建設工事(京田辺)
	専門職大学院認証評価申請	香柏館 屋根・外壁改修工事(京田辺)
	教職員向け広報システム改修	多々羅キャンパス シャワー設備整備等工事
		ローム記念館 劇場空間機器リプレイス(京田辺)

■2013年度収支予算書 (表1)

2013年4月1日から2014年3月31日まで

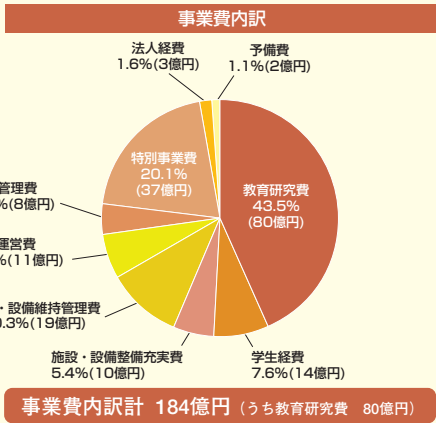
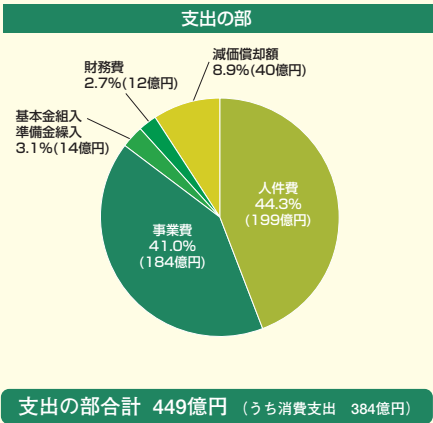
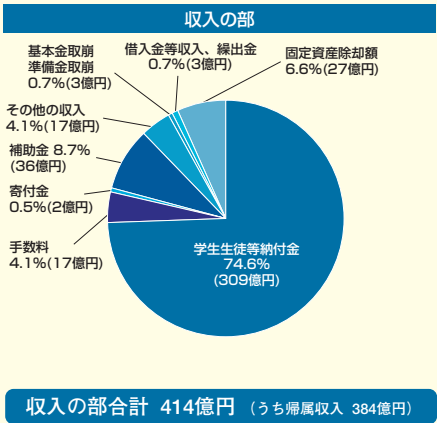
(単位：千円)

収 入 の 部				
科 目	予 算	前年度予算	増 減	主 な 内 訳 また は 増 減 理 由
学 生 生 徒 等 納 付 金	30,875,110	31,350,050	△ 474,940	新入生について入学定員どおり計上
手 数 料	1,732,200	1,713,950	18,250	入学検定料等
寄 付 金	160,400	277,230	△ 116,830	寄付教育研究プロジェクト研究活動あて寄付金等、収納が確実なもののみ計上
補 助 金	3,612,770	3,923,720	△ 310,950	経常費補助金、国際化拠点整備事業費補助金等、収納が確実なもののみ計上
資 産 運 用 収 入	541,860	625,960	△ 84,100	
資 産 売 却 差 額	0	478,050	△ 478,050	前年度は第3号基本金引当資産における評価替え債券の償還差益を計上
事 業 収 入	355,400	562,560	△ 207,160	企業からの研究受託に係る受託事業収入等、収納が確実なもののみ計上
雑 収 入	666,460	822,790	△ 156,330	退職金財団交付金収入等、収納が確実なもののみ計上
繰 出 金	331,590	204,600	126,990	法人内諸学校からの資金調達の返済額等
分 担 金	159,580	117,010	42,570	法人内諸学校からの法人業務に係る分担金
帰 属 収 入 合 計	(38,435,370)	(40,075,920)	(△ 1,640,550)	
第2号基本金取崩額	60,000	4,490,000	△ 4,430,000	前年度は大学今出川校地整備資金に充当、本年度は研究装置の取得資金に充当
当期固定資産除却額	2,699,100	1,871,930	827,170	2003年度取得固定資産の一括除却等
借 入 金 等 収 入	0	0	0	
当 期 末 未 払 金	0	24,100	△ 24,100	
基本金繰入額、未繰入額計	(2,759,100)	(6,386,030)	(△ 3,626,930)	
特定支出準備金取崩額	214,780	94,380	120,400	国際連携推進事業に係る準備金の取崩額等
収 入 の 部 合 計	[41,409,250]	[46,556,330]	[△ 5,147,080]	

支 出 の 部				
科 目	予 算	前年度予算	増 減	主 な 内 訳 また は 増 減 理 由
人 件 費	19,914,210	19,475,410	438,800	補助金事業に係る教員・職員の増員等
教 育 研 究 経 費	15,647,760	14,948,150	699,610	主な新規事業参照
消 耗 品 費 他	11,774,130	11,650,780	123,350	
減 価 償 却 額	3,873,630	3,297,370	576,260	
管 理 経 費	1,581,340	1,674,410	△ 93,070	主な新規事業参照
消 耗 品 費 他	1,422,820	1,534,820	△ 112,000	
減 価 償 却 額	158,520	139,590	18,930	
借 入 金 等 利 息	7,390	11,500	△ 4,110	借入金残高の減少
資 産 処 分 差 額	120,130	120,930	△ 800	
徴収不能引当金繰入額	150,740	176,280	△ 25,540	
繰 入 金	704,900	555,450	149,450	法人内諸学校への資金調達等
予 備 費	240,000	120,000	120,000	経理規程（経常勘定における帰属収入の7／1000以上を計上）に基づく
消 費 支 出 合 計	(38,366,470)	(37,082,130)	(△ 1,284,340)	
施設関係支出	3,360,250	10,311,110	△ 6,950,860	主な新規事業参照、前年度は大学今出川校地整備事業費を計上
設備関係支出	1,625,490	2,968,590	△ 1,343,100	主な新規事業参照、前年度は大学今出川校地整備事業費を計上
借入金等返済支出	206,080	206,080	0	
前 期 末 未 払 金	47,270	172,030	△ 124,760	
第2号基本金組入額	1,200,000	0	1,200,000	計画に基づき大学教学施設設備整備資金の組入額を計上
第3号基本金組入額	0	0	0	
第4号基本金組入額	123,100	△ 14,500	137,600	学校法人会計基準に定める「恒常的に保持すべき資金の額」との差額を組入
基本金要組入額、当年度組入額計	(6,562,190)	(13,643,310)	(△ 7,081,120)	
特定支出準備金繰入額	33,570	592,730	△ 559,160	前年度は第3号基本金引当資産における評価替え債券の償還差益を計上
支 出 の 部 合 計	[44,962,230]	[51,318,170]	[△ 6,355,940]	

収 支 差 額 の 部			
科 目	予 算	前年度予算	増 減
当 年 度 消 費 収 支 差 額	(△ 3,552,980)	(△ 4,761,840)	—
消費支出準備金繰入額	0	0	—
消費支出準備金取崩額	795,370	1,233,270	—
繰入取崩後消費収支差額	(△ 2,757,610)	(△ 3,528,570)	—
前年度繰越消費収支差額	[△ 34,827,740]	[△ 31,299,170]	—
翌年度繰越消費収支差額	[△ 37,585,350]	[△ 34,827,740]	—

■収支構成図



■事業別予算書 (表2)

(単位：千円)

事業別予算総括表	
事業項目	予算
人件費	(19,914,210)
事業費	(18,422,690)
基本金・準備金	(1,403,940)
財務費	(1,189,240)
減価償却額	(4,032,150)
支出の部合計	[44,962,230]

事業費内訳	予 算
教育研究費	(7,983,770)
研究費	1,885,620
研究所経費	120,800
実験実習費	789,720
教育研究援助費	1,414,950
情報処理教育研究費	994,340
学術情報整備充実費	474,460
国際交流関係費	975,770
入学試験経費	601,030
教学事務運営費	727,080
学生経費	(1,428,170)
奨学援助費	815,070
学生生活助育費	515,530
学費	97,570
施設・設備整備充実費	(1,003,950)
施設・設備維持管理費	(1,870,960)
維持運営費	(1,112,330)
一般管理費	(763,670)
一般管理費	586,640
教職員福利厚生費	177,030
特別事業費(建設事業等)	(3,704,010)
新設学部・研究科関連経費	(0)
法人経費	(315,830)
予備費	(240,000)
事業費小計	[18,422,690]

基本金・準備金内訳	
事業項目	予算
第2号基本金組入額	(1,200,000)
第3号基本金組入額	(0)
第4号基本金組入額	(123,100)
翌年度基本金組入額繰延額	(0)
前期末未払金	(47,270)
特定支出準備金繰入額	(33,570)
基本金・準備金小計	[1,403,940]

財務費内訳	
事業項目	予算
借入金等返済支出	(206,080)
借入金等利息支出	(7,390)
資産処分差額	(120,130)
徴収不能引当金繰入額	(150,740)
繰入金	(704,900)
財務費小計	[1,189,240]



容保桜植樹式開催

2月26日、今出川キャンパスの彰栄館東、サンクタスコートで容保桜の植樹式が行われました。

容保桜は、京都府旧本館の中庭にある大島桜と山桜の特徴を併せ持つ珍しい桜です。その地が江戸時代末期に京都守護職を務めた会津藩の上屋敷跡であったことから、藩主松平容保公の名前にちなみ、桜守の第16代佐野藤右衛門氏によって「容保桜」と命名されました。



このたび、樹齢約3年で約80cmに育った2本を植藤造園(会長 佐野藤右衛門氏)から寄贈いただき、サンクタスコートに植樹しました。

今後、この2本の容保桜が、京都府、福島県、同志社の3者がさらに密接に連携をとっていく1つのシンボルとなり、東日本大震災の復興支援への想い、3者がともに発展することへの願いをもって、大きく成長していくように願っています。

(広報課)

『吉永小百合チャリティコンサート・朗読会』第二楽章

『ヒロシマ・ナガサキ・フクシマ』
『平和への願いをこめて』

3月5日、寒梅館ハーディーホールでアッセンブリーアワー企画『吉永小百合チャリティコンサート・朗読会』第二楽章『ヒロシマ・ナガサキ・フクシマ』『平和への願いをこめて』を開催しました。

吉永小百合氏は俳優活動の傍ら、原爆詩の朗読を27年間にわたりライフワークとして取り組み、核兵器や戦争の無い社会を実現するよう、常に祈るように語り継いでおられます。今回は、海外でも活躍されているギタリスト、村治佳織氏、奏一氏、姉弟にもギター演奏のご協力をいただき、『第二楽章を語り継ぐ会』共催のもと、京都市内での開催が実現しました。

第一部は村治姉弟のギター演奏と、同志社グリークラブによる合唱、第二部は吉永氏の原爆詩朗読が行われました。厳粛な空気が張り詰める中、1,000人近い来場者が、平和への願いを伝える朗読



に聴き入りました。

吉永氏は、一つひとつの詩が終わるたび、祈るように目を閉じ、心に響く8編の詩を朗読されました。最後は、同志社グリークラブ、同志社小学校の児童と一緒に「あの青い空のように」「折り鶴」を合唱して、会は締めくくられました。

来場者からは、「涙が止まらなかった」、「これからも福島の人達に心を寄せていきたい」、「このような企画を将来にわたって大切にしてほしい」、「素晴らしい企画で、同志社大学生として誇りに思う」という感想が多数寄せられ、次世代に想いが引き継がれる、本学にとっても記念すべき会となりました。

(今出川校地学生支援課)

日本留学フェア

『Japan Education Fair in Turkey』を開催

3月16日、トルコ・イスタンブールの旧日本国総領事館において、日本留学フェア『Japan Education Fair in Turkey』を、本学主催(共催:イスタンブール日本国総領事館)で開催しました。

「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業(以下、グローバル30)」の一環として、日本の大学院への留学を希望する外国人学生を主な対象として開催した本フェアには、200人を超える現地学生の他、文部科学省や総領事館、グローバル30に採択された大学8大学(東北・筑波・東



京・名古屋・京都・九州・慶應義塾・同志社、メディア関係者等、合計約250人の参加があり、フェアの模様がニュースで放送されるなど、盛況の内に閉会しました。

当日は、各大学がブースを設置して行う個別相談会と並行して、『Scholarships』『Study in Japan』『Job Opportunities』の3つのテーマで講演を行いました。どのブース・講演にも学生が絶えず詰めかけ、日本留学への関心の高さがうかがわれました。また、フェア終了後に教育関係者内で催されたレセプションにおいても、限られた時間の中で、国や大学の垣根を越えた有意義な交流・情報交換が行われ、今後の有機的な連携を確信できるものとなりました。

多様な国々からの質の高い留学生の受入促進が一つの課題であるグローバル30採択大学にとって、トルコ人学生の日本留学や日本文化、日本企業への関心の高さを実感するとともに、イスラム圏の学生を受け入れる上で、ハラル食や礼拝場所・清めの洗い場等、設備面の整備の必要性・重要性を改めて考えさせられる非常に良い機会となりました。

(国際化推進室)

韓国語版・中国語版

『京田辺市生活ガイドブック』完成報告会

3月22日、京田辺市役所で『京田辺市生活ガイドブック』完成報告会が開かれ、韓国語版・中国語版の翻訳や編集を担当した学生が、石井明三京田辺市長との懇談に臨みました。

このガイドブックは市内で生活する上で必要な手続きなどの情報が掲載されている外国人向けの冊子で、今回新たに韓国語版・中国語版が発行されました。翻訳を担当したのは、グローバル・コミュニケーション学部日本語コースの留学生8人。日本語コースは、日本語で開講される授業を日本人と肩を並べて受講するなど、大学生活を過ごすための基礎的な日本語力をもった留学生のみで構成されています。卒業までには、単なる日本語力の向上のみならず、日本人と外国人の視点から物事を論理的に考え、それを発信できる力を養い、日本の社会で活躍できる外国人人材の育成を目指しています。

報告会では、多くの留学生にとって初めての経験となった翻訳作業についての感想が報告されました。中国の留学生は「銭湯」という日本語の表



現は、中国語で解釈すると「お金のスプー」となると述べ、中国語と日本語はともに漢字を用いるが、それだけに慎重に翻訳しなければならぬと報告していました。

翻訳を担当した留学生は今後「ビジネス日本語」や「インターンシップ」「日本の社会実習」といった科目を通じて日本の社会とより深く接することになります。翻訳を通じての地域社会への貢献が、日本での活躍のステップアップとなることは間違いないでしょう。

(グローバル・コミュニケーション学部)

脳科学研究科(快風館)公開シンポジウム開催

「アルツハイマー病の治療薬開発最前線」タウの焦点を絞って

3月23日、学研都市キャンパスで、脳科学研究科公開シンポジウム「アルツハイマー病の治療薬開発最前線」タウに焦点を絞って」を開催しました。

木津川市またはその近隣に在住で認知症に関心のある一般市民及び医療従事者に、アルツハイマー病治療薬開発に関する科学的知識をわかりやすく解説し、これまでのアルツハイマー病治療研究の問題点と最先端の研究、今後の展望を解説しました。アルツハイマー病の原因物質はAβeta分子の凝集塊とタウタンパク質の凝集塊であるといわれていますが、これまでのシンポジウムとは異なり、Aβeta分子ではなくタウタンパク分

子に焦点を当て、抗タウ薬としてのアルツハイマー病治療薬の可能性を論じました。シンポジウムでは学外からの招聘者を含めた4人の講師が「アルツハイマー病」疫学と発症機序概説」

(荒井啓行 東北大学加齢医学研究所教授)「脳プロジェクトDXI開発状況」(高島明彦 国立長寿医療研究センター認知症先進医療開発センター部長)、「抗



タウ治療薬の可能性を探る」(宮坂知宏 生命医科学部助教)、「認知症治療薬開発の現状と問題点」(杉本八郎 脳科学研究科チエ・プロフェッサー教授)のテーマで講演を行い、最後に、井原康夫 脳科学研究科教授からの大学発創業開発の可能性についての提言をもつてまとめました。

事前申込制で、かつ平易とは言えない内容にもかかわらず、当日は80人以上の参加者があり、会場はほとんど空席がないほどの盛況となりました。熱心にメモをとる参加者も多く、講演者に対して積極的な質問もあり、充実したシンポジウムとなりました。

(脳科学研究科)

文化系公認団体表彰式

3月15日、寒梅館ハーディーホールにて、「2012年度文化系公認団体表彰式」を開

催しました。全国規模の大会等でトップレベルの活躍をみせた団体、社会貢献性の高い活動を行った団体、学生らしい創意工夫がみられた団体が対象となり、今回は以下の16団体が表彰されました。

応援団の演舞による華やかな幕開けの後、真銅正宏学生支援センター所長によるお祝いの言葉があり、各団体への表彰式が挙行されました。今回大賞となった機械研究会は、第10回全日本学生フォーミュラ大会において全82校中、総合3位という好成績を収めた活動が評価されました。優秀賞は漫画研究会、E.S.S.デイベートセクション、E.S.S.スピーチセクション、グリーククラブの4団体が受賞しました。

真銅正宏学生支援センター所長からそれぞれの団体に賞状と副賞が渡されると、学生たちは喜びのコメントとともに、プレゼンテーションなどで活動内容を発表しました。式典の最後に、応援団の指揮のもと、一同で同志社カレッジソングと同志社cheerを斉唱、文化系公認団体としての帰属意識と結束力を高める機会となりました。

【学生支援センター所長大賞】

・機械研究会

【学生支援センター所長優秀賞】

- ・漫画研究会
- ・E.S.S.デイベートセクション
- ・E.S.S.スピーチセクション
- ・グリーククラブ

【学生支援センター所長優良賞】

- ・将棋研究会
- ・法学研究会
- ・広告研究会

・マジック&ジャグリングサークル
Hocus Pocus

【学生支援センター所長特別賞】

・書道部

【学生支援センター所長地域貢献賞】

・応援団吹奏楽部

【学生支援センター所長奨励賞】

・鉄道同好会

・学生テレビ局

・学生新聞局

・人力伸友之会

・ワーキングコーラス

※役職は3月15日現在
(広報課)

同志社大学の募金事業

本学では、かねてからご父母、教職員はもとより広く社会全般に向けて募金のご協力をお願いしてきました。

昨年度は、今出川キャンパスの教育研究環境の再整備を目的とした「今出川キャンパス新校舎建設資金募金」、教育研究活動を展開する施設設備の整備を目的とした「教育研究施設等整備募金」、経済的困窮に苦しむ学生を支える特定寄付奨学金制度の資金に充てる「奨学金資金募金」、次代を拓く情報教育プロジェクトを支援する「同志社ルーム記念館プロジェクト・サポート募金」事業を行いました。これに対してご父母、卒業生、法人、教職員など多方面からご協力をいただき、集まった資金を活用して所期の事業を実施します。

これも皆さまの深いご理解の賜物と、厚く御礼申しあげます。2012年度の募金事業の実績について、次の通りご報告します。

2012年度 募金事業実績報告書(2012年4月～2013年3月入金分)

募金事業	寄付件数および金額			使 途
今出川キャンパス 新校舎建設資金募金	在学生父母	305件	17,883,000円	2012年度に実施した今出川キャンパスおよび鳥丸キャンパスの建設工事のための資金として活用。詳しくはホームページ (http://www.doshisha.ac.jp/granddesign/index.html)をご覧ください。
	卒業生、一般、法人	65件	115,250,000円	
	教職員	8件	657,000円	
	計	378件	133,790,000円	
教育研究施設等 整備資金募金	在学生父母	274件	15,312,000円	2012年度に実施した至誠館免震、香柏館改修工事を行うなど、施設整備資金として活用。 ■建設事業の詳細は、学校法人同志社発行「事業報告書2012」(同志社大学2012年度の事業実績)に記載しています。
	卒業生、一般、法人	182件	22,454,920円	
	計	456件	37,766,920円	
	在学生父母	1件	10,000円	
奨学金資金募金	卒業生、一般、法人	70件	7,793,840円	2012年度に実施した特定寄付奨学金給付の資金として活用。 給付件数34件、給付総額10,200千円 残額は2013年度の同奨学金資金として繰越。
	教職員	57件	4,440,000円	
	計	128件	12,243,840円	
	卒業生、一般、法人	1件	4,000,000円	
同志社ルーム記念館 プロジェクト・サポート募金	教職員	4件	131,000円	2012年度に実施した同志社ルーム記念館プロジェクト(教職員、学生、生徒と産・官・学・地域の連携によるプロジェクト)の支援資金として活用。
	計	5件	4,131,000円	
	卒業生、一般、法人	1件	4,000,000円	

なお、奨学金資金募金では3月末までに、卒業生および教職員の方々から以下の通りご協力をいただきました。

2012年度協力者(芳名)

(2013年2月～3月申込分) 順不同 敬称略

【卒業生、ご父母、一般、教職員】

ご芳名のみ 根岸 一美
匿名 1名

※教育研究施設等整備資金募金、プロジェクト・サポート募金のご芳名につきましては、別途芳名録を作成しご寄付いただいた方々にお送りしています。

本学では個人の皆さまから広くご寄付を募ることを目的にインターネットでの募金を開始いたしました。皆さまのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

URL <https://bokin.doshisha.ac.jp>
インターネットでの募金では以下の払込方法をご選択いただけます。

- 1 クレジットカード
- 2 インターネットバンキング
- 3 口座振替

これらの募金事業については、本年度以降も社会各界に対して継続的に呼びかけを行いますので、引き続き温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(資金課)

■新任教員紹介

授業科目を担当する専任教員を紹介いたします。

- ①所属(学科/専攻)
- ②職名
- ③主な担当科目



今井ナタニエル
アゴラ

- ①グローバルスタディーズ
グローバルスタディーズ
- ②准教授
- ③社会研究方法論Ⅰ

本学教員の執筆図書紹介

(図書館調べ(価格は税別))

ビタミニミネルの科学

野口龍子 他著 朝倉書店 3,800円

EUの法秩序と経済秩序

早川勝 法律文化社 7,000円

恐慌の歴史

浜矩子 著 宝島社 743円

十五年戦争期の天皇制とキリスト教

伊藤彌彦 原稿 他著 新教出版社 5,700円

Kyoto Working Papers in English and General Linguistics 1

寺西隆弘 他著 開拓社 6,500円

スポーツ政策論

真山達志 横山勝彦 他編著 川井圭司 他著 成文堂 3,500円

講義「源氏物語」とは何か

廣田収 著 平安書院 1,500円

ソプリニスクの正体

浜矩子 著 フォレスト出版 900円

進化技術ハンドブック 第2巻

廣安知之 他著 近代科学社 8,000円

江戸絵画の不都合な真実

狩野博幸 著 筑摩書房 1,800円

無頼の画家曾我蕭白

狩野博幸 他著 新潮社 1,400円

反骨の画家河鍋暁斎

狩野博幸 他著 新潮社 1,500円

日本の色

狩野博幸 他著 平凡社 1,800円

狩野永徳の青春時代・洛外名所遊楽図屏風

狩野博幸 著 小学館 1,900円

長沢声雪

狩野博幸 監修 狩野博幸 他著 平凡社 2,400円

異能の画家伊藤若冲

狩野博幸 他著 新潮社 1,400円

行政と国民の権利

田中治 他編 法律文化社 15,000円

キリスト教とは何か。I

小原克博 協力 阪急コミュニケーションズ 1,800円

キリスト教とは何か。II

小原克博 他協力 阪急コミュニケーションズ 1,800円

EUメルトダウン

浜矩子 著 朝日新聞出版 1,300円



第42回 Neesima Room 企画展

会津と八重

— 八重を育てた故郷 —

開催中!



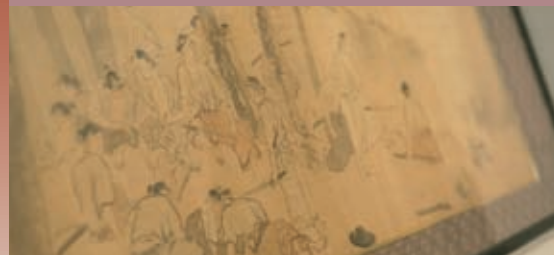
「家訓(かきん)」(会津若松市所蔵)

1668年(寛文8年)に会津松平家の祖・保科正之が定めた、十五カ条からなる会津藩の取るべき指針を明文化したもの。その第一条は徳川幕府への絶対的な忠誠を宣言しており、会津藩の存在そのものを定義している。これが京都守護職の拜命など、会津藩の幕末における行動を決定する規範のひとつとなった。



「ゲベール銃」(会津若松市所蔵)

八重も覚馬も扱った幕末のオランダ歩兵銃。ゲベールとはオランダ語で小銃を意味する。戊辰戦争で鶴ヶ城に籠城中、八重は夜襲に加わった際にはゲベール銃を用いたとも語っている。



「白虎隊自刃之図」(会津若松市所蔵)

大正から昭和にかけて京都画壇で活躍した日本画の巨匠・橋本関雪が描いた白虎隊最後の姿。猿や馬の動物画で知られる関雪が、白虎隊士の自刃図を描いた理由は不明だが、京都と会津の関係を象徴する作品である。今回の企画展が関西には初お目見え。(※現在、展示は終了しています)

会津の至宝、 京都・同志社へ

会津で生まれ京都の地で生涯を閉じた、創立者 新島襄の妻、八重。1月から放映されている大河ドラマ「八重の桜」の主人公に八重が決定して以来、同志社は福島県や会津若松市との交流を深めてきました。この企画展は、八重を通して会津の歴史や風土、文化にふれるとともに、福島の観光振興に寄与することで震災復興の一助になれば、との思いで開催するものです。

展示は資料・作品が語る「会津の文化」を通じて、八重という個性を育てた会津の本質を知る「八重が生まれた会津」、八重自身も銃を手に戦った、新政府軍との鶴ヶ城での籠城戦を中心に展示する「戊辰戦争前後」、新島襄の永眠後、京都で明治・大正・昭和を生きた八重を語る「晩年の八重と会津」の3章で構成。68タイトル、100点におよぶ展示品の中には、会津の地を初めて離れ、京都に初お目見えするものも多くあります。そうした「至宝」からは、八重とその故郷・会津の息遣いを感じることができるとでしょう。

展示作品(一部) ※展示期間が限られる展示品が多数あります。

- ・碎石手 透し文虫籠
- ・家訓
- ・『日新館童子訓』上・下巻
- ・松平容保和歌懐紙「水辺柳」
- ・追鳥狩図屏風・城下図屏風
- ・枝菊漆絵会席 膳枕
- ・絵蠟燭
- ・楓文蒔絵卵殻塗枕
- ・鐐「伊勢物語図」
- ・縁頭「薄に狸図」
- ・会津年中行事図屏風
- ・錦絵「京都戦争図」
- ・木箱(「薩州四番隊附金穀方」墨書入)
- ・木村銃太郎肖像画
- ・四斤山砲砲彈
- ・ゲベール銃
- ・諸士系譜217(松平家旧蔵品)
- ・『佳人之奇遇』第2巻
- ・新島八重和歌短冊「明日の夜は」
- ・新島八重和歌懐紙「大君の」
- ・新島八重和歌懐紙「いつしかに」
- ・新島八重旧蔵昭和の大礼記念章
- ・新島八重和歌短冊「いくとせか」

Neesima Room 企画展

「会津と八重」八重を育てた故郷

● 期間・時間

2013年6月30日(日)まで

10時~17時

※土曜日、日曜日は16時で閉室します。

※火曜日は閉室しています。

● 開催場所

Neesima Room

今出川キャンパス ハリス理化学館2階

● 入場料 無料

● お問い合わせ先

同志社大学 同志社社史資料センター

TEL: 075・251・3042

公開講演会 会津と八重

「八重を育てた故郷を語る」

● 2013年6月15日(土) 13時30分~16時30分

● 良心館(地下2番教室)

講師・野口信一氏(会津歴史考房主宰)

露口卓也(同志社大学文学部教授)

"تحدي نفسك و اكتشف بشكل أعمق حقيقة ما يجري في العالم بالتجربة و معايشة الثقافات الأخرى!"

يشهد العالم تغيرات مستمرة ولهذا السبب هناك الكثير من الإهتمام والبحوث تصب في موضوع العولمة. بالنسبة لي , فانا ملتحق ببرنامج الدكتوراة في كلية الدراسات العليا للعولمة بجامعة دوشيشا. قبل قدومي لكيوتو, عملت لعدة سنين في مجال التنمية الدولية بفلسطين خاصة بقطاع غزة و الضفة الغربية. لقد تعرفت من خلال تجربتي العملية على مواقع القوة والضعف في أنظمة المساعدات و السياسة الدولية. لذلك, هناك ثمة حقيقة هامة تبلورت لدى قناعتني أن المجتمع و الشعب هم الركيزة الأساسية لتحقيق التقدم والحرية و التنمية. بحثي هنا في دوشيشا يتناول موضوع المجتمع المدني المسلم لأن ما يحصل حاليا هو تغيرات مجتمعية هائلة في دول مثل مصر و تركيا وتونس و المغرب و ماليزيا و غيره.

إن مدينة كيوتو التاريخية تعتبر قلب اليابان النابض ثقافيا وعلميا و هذا ما يميزها بمكانة مرموقة وعظيمة. كذلك جامعة دوشيشا معروفة بأفقها الواسع و انفتاح رؤيتها للعالم الخارجي بفضل وجود أساتذة ذو سمعة عالية محليا و عالميا مع حرصهم على تسهيل عقد مؤتمرات مستمرة على حرم الجامعة و خارجه.

بالنسبة للهواية, فقد كنت أحرص على ممارسة السباحة على شاطئ البحر المتوسط في مدينتي غزة, فلسطين. أما كيوتو فليس هناك بحر لكن اكتشفت هواية رياضة المشي في الجبال الخضراء المحيطة بمدينة كيوتو. رسالتي لطلاب جامعة دوشيشا فهي أن تتحدوا أنفسهم و تخرجوا للعالم و تتعرفوا بشكل أعمق على حقيقة أحداث العالم بالتجربة و معايشة الثقافات الأخرى.

إياس سليم أبو حجر

世界で起こっている問題について、 真に理解することに挑戦してみるのです

私たちの世界は常に変わり続けています。多くの人がグローバル化のプロセスに関心を持ち、研究をしています。私はグローバル・スタディーズ研究科の博士課程で研究を進めていますが、同志社に来る前にはパレスチナのガザ地区やヨルダン川西岸地区における国際開発に携わり、その経験から国際的な政治システムと援助システムの長所と短所を学びました。国際的な機関だけでなく、社会やコミュニティこそが、自由と進歩のための開発に必要な不可欠なのです。私は同志社で、イスラム市民社会について研究しています。なぜなら、現在、エジプト・トルコ・モロッコ・マレーシアなどに見られるような巨大な社会的転換がイスラム市民社会に訪れているからです。言うまでもなく、京都日本の文化と教育の中心的な場所です。そして、同志社はとても視野が広く開放的であり、多くの会議や対話の機会を設けることで優秀な学者たちを惹き付けています。

地中海に面するガザでは海水浴を楽しんでいましたが、京都市内には海がありません。今は京都を囲む美しい山々のハイキングを楽しんでいます。私は同志社の学生たちに「世界に旅立って挑戦してください」と伝えたいです。自分たちとは違った文化、また現在、世界で起こっている問題を真に理解することに挑戦してみるのです。

イヤス・サリム

2011.4 ~ グローバル・スタディーズ研究科に在学
(パレスチナ出身)

原次郎左衛門正幸さんに聞く

インタビュー
宮村 菜保さん
「商学部4年次生」



宮村●まず、地元の大分から京都の同志社大学へ進まれた理由を教えてくださいませんか。

原●私は将来家を継ぐことが決まっていたので、経営を学ぶことはもちろん、中・高とやっていた軟式テニスを続けられる大学を志望し、当時強豪校だった同志社大学に決めました。大学では体育会のテニス部に入り、岩倉にあったテニスコートに「通学」と言えるほど、毎日練習に明け暮れていましたね。

宮村●卒業後はすぐこちらの会社に入られたのですか。

原●違います。同志社大学では商学部で経営の勉強はしましたが、家業の味噌、醤油については何も学んでいなかったのので、東京農業短期大学の醸造科に2年通いました。

宮村●そこを出られてからはこちらへ？

原●それも違うんです(笑)。すぐに大分に戻らず、友人のお父さんがベルギーのブリュッセルで味噌、醤油、豆腐をつくる会社を経営していたことから、まずそこを紹介してもらって働くことにしました。半年間ベルギーで働いて、その後ヨーロッパを旅行してから帰ろうと思っていたのですが、向こうへ行くと予定していた旅行の方が

面白いと感じてしまい、急遽仕事をキャンセルして、1年4カ月間、北半球の52カ国を旅行して回りました。日本に帰ってきてからは6年半ほどは、仕事を中心に……というより大好きなテニスを中心に生活していました。しかし、私が32歳の時に父が急死し、その日を境に真剣に仕事に取り組むようになりました。父が亡くなり、それまでの私の行動から「まるはらはすぐつぶれるのでは……」という評判が立ったものですから、とにかく無我夢中で働きましたね。

宮村●そして開発されたのが「鮎魚醬」あゆぎしやう。これはどういうもののですか。

原●魚醬の一種で、鮎と塩だけでつくった無添加の調味料です。魚醬独特のにおがなく、料理に数滴加えるだけで素材の味と香りを引き立てます。今から10年以上前のことですが、地元で鮎を養殖している業者から、市場に出せない規格外の鮎が産業廃

今回の同志社人

原次郎左衛門正幸さん

〔1970年 商学部卒業〕

1948年生まれ、大分県出身。同志社大学商学部卒業後、東京農業短期大学醸造科を経て、合名会社まるはら入社。1980年2月、同社代表社員(社長)就任。合名会社まるはらの歴史は古く、1887年(明治20年)後半、原さんの祖父が日田で製菓業を始め、1899年(明治32年)に味噌・醤油・清涼飲料水の製造を開始した。屋号の「まるはら」とともに受け継がれている当主「次郎左衛門」の名前は、1995年から名乗っており、4代目となる。



物を材料にした「穀びしお」と、魚からつくる「魚びしお」それに肉を使った「肉びしお」があったと言われています。「穀びしお」が今の一般的な醤油で、「魚びしお」は魚醤、「肉びしお」は今では全くなくなってしまったのですが、今回当社がつくり出したことで、3種類の醤油を製造する日本で唯一の醤油メーカーになりました。

入ってきたら、ひとまずチャレンジしてみよう。最初から疑うということをあまりしませんが、疑わないから失敗することも多いのですが、何度か失敗すると、その中から面白いものが見つかるものです。

宮村●御社には「不易流行」という理念がありますが、これは昔から変わらないものを守りつつ、そこに時代のニーズにあったものを加えて新しいものをつくっていくということですか。

原●まさにその通りです。醤油、味噌というのは伝統産業ですから、まずそういう伝統を守っていききたい。さらに、いつも「何か面白いことはできないか」と考えています。昔ながらの商品で新しいものをつくる、古いものを大切にしながら新しいものを取り入れていく。古いものと新しいもの、その2つを融合させたい。でも、あくまでも基本は不易の心です。「変わらないもの」を根本に置いています。

宮村●仕事をしていく上で大切にされていることはありますか。

原●人の意見を聞くということですね。私は運動神経がそれほど良くないので、テニス部に所属していた時から、活躍する先輩の意見を聞いて真似をしてみることが習慣づいています。多くの人のやり方を聞いて良いところを吸収し、そこに自分なりの工夫を加えていく。大学のテニス部には素晴らしい選手がたくさんいましたから、我流でどんなに練習してもとても

棄物になって困っているという話があり、

大分県の産業科学技術センターと共同で研究し、鮎魚醬を開発しました。千葉の幕張メッセで開かれた食品見本市に出展したところ、レストランのシェフに評判が良く、商品化につながりました。その後、パリやニューヨークの見本市にも出して、世界の名だたる有名レストランのシェフたちが取り入れてくれました。今では毎年発表される「世界レストランランキング100位」の中の4軒で使ってもらっています。

宮村●すごいですね。その「鮎魚醬」に続いて、また新しく開発されたものがあるとお聞きしました。

原●鶏の心臓とレバーを使ったもので「肉醬」と言います。実は平安時代、京都に7軒の醤油屋があつて、当時の醤油は穀

敵いません。しかし、素直な姿勢でアドバース通りに一生懸命やっていると、ある瞬間、劇的に変われるのです。やはり、自分の力だけでは限界があると思います。「お前は能力はないけど人の意見を聞く才能はある」と言われたことがあります(笑)。人の意見を聞いて、その中のどれを採用するかは自分次第ですから。



宮村●私は就職先として金融関係を志望しています。企業経営者としての立場から、何かアドバイスをいただけませんか。

原●経済が発展するのには中小企業が頑張らないといけません。ただ、そういう企業は資金がないですから、新しい産業を興そうとしている中小企業をぜひ応援して



間近で見学できる「原 次郎左衛門蔵」のラムネ工場



蔵元で造られる数々の商品は、できたてのおいしさがそのまま



「鰯魚醬」(右)と「肉醬」。世界の有名シェフが絶賛する天然調味料

ほしいですね。当社も売り上げが1億5000万円の時に、2億円を超える借金をしたことがあります。工場の老朽化に伴い、やむを得ず必要な資金でしたが、半年後には、追加融資をお願いしなければならなくなり、もし断られたら倒産かという事態にまで陥りました。父から引き継いだ時には借金がなかったのに、それが一気に2億円超の借金。その頃は夜も寝られませんでした。しかし、なるようにしかならない最後はなりふり構わずやるしかない。そういう考え方は、大学の体育会で得たことかもしれませんし、何事も乗り越えられる力に

なると思います。

宮村●最後に同志社大学の後輩に向けて、メッセージをいただけますか。

原●大学時代、私は朝から晩までテニスをやっていました。それを後悔はしていません。何か一つのことを打ち込むというのは良いことだと思うからです。ただ、今考



えるともう少し勉強しておけば良かった(笑)。というのも、ある程度きちんと勉強しておかないと、海外では日常会話にさえついていけません。外国の人は大学で鍛えられているから基礎学力をもっているのです。私たちは高校まで受験があるので勉強はしていますが、ぜひ、海外に出て通用するような知識と学力を大学で得てほしいです。

そして、これから先、絶対に必要になってくるのは英語力です。英語が話せないと苦労します。私自身、海外の見本市などに出かけて海外の方と話をすることが多かったのですが、非常に苦労しました。3〜4分の日常会話なら大丈夫でも、専門的な会話になるとほとんどわからない。やはりビジネスで英語が使えないと恥ずかしいですね。

宮村●私は来年からは社会人です。どんな職種に就くにしても、大変参考になるお話を伺うことができました。本日はどうもありがとうございました。

INTERVIEWER

宮村 菜保さん

商学部 4年次生

大阪府出身。社会に出て活かせる知識を大学時代に吸収したいと商学部を選択。プロジェクト科目『京の台所・錦市場を中心に「京の食文化」を留学生に発信しよう!』で、留学生向けに錦市場ツアーやおばんざいづくりなどのイベントを企画・実施。京の食文化を通して食の国際交流のおもしろさを体感した。1年次に簿記2級を取得、3級FP技能士の資格ももつ。

人の意見を聞けば変わることができる。大切にしている思いに共感。

人の意見をよく聞くことを大切にしている、とおっしゃったのが印象的でした。私も、何か行動する時に自分の考えばかりを主張するのではなく、人の意見をしっかり聞いて、最終的には自分で決めるということが大切だと思っているので、とても共感できます。また、プロジェクト科目で、自分たちが何気なく手にとっている商品には生産者のこだわりや苦労が多く詰まっていることを感じましたが、原さんから「鰯魚醬」などの商品をつくる上での強い信念が伝わってきました。全てが順風満帆ではなく、とても苦労された経験なども伺い、私は金融業界を志望しているの、中小企業の皆さんの力になりたいと改めて思います。

2008年から羽田空港のドックで飛行機の整備を担当しています。通常は、数人でチームを組み、一機を約一カ月かけて分解し整備していますが、時には夕方に到着した飛行機のエンジンを翌朝のフライトまでに交換する場合もあります。いずれも、安全で快適なフライトのための大事な作業です。

航空業界に進んだきっかけは、父の仕事の都合で小学生までバンコクで過ごし、日本との往復で飛行機を頻繁に利用していたことです。私にとって、飛行機はまさに生活の一部でした。また、大学院で2年間研究に没頭した結果、自分は結果が形となって表れる仕事に向いていることに気づいたことも、就職した大きな理由です。

大きな目標に向かって突き進んできた今、次なる挑戦の 때가 目前に。

整備士は、わずかな異常でも見逃すことが許されません。飛行機は何万という膨大な部品で構成されていますが、異常の原因を早期に見つける先輩方を見ると、自分の力不足を痛感します。しかし、知識を身につけ経験を積むことが、対応力や判断力を養うことに直結していることがこの仕事の魅力。高いスキルを持った先輩方がいるからこそ、勉強したことを思い切り実践させてもらえます。

2012年8月には、B767の一等航空整備士の国家資格を取得しました。学科試験に始まり、最終の実地・口頭審査までは少なくとも2年近くかかる資格です。仕事の合間を縫っての勉強は大変でしたが、試験

勉強で得た知識が、次の日の仕事に早速役立つこともありました。合格すると、任せられる仕事の量も増え、自分が目指す先輩方の後ろ姿が少し見えたような気がしましたね。しかし、これはスタートラインです。というのも、一等航空整備士の資格は機種ごとに取らなければならず、さらにはANA独自の整備士の資格もあるため、一人前の整備士と呼ばれるには10年以上かかるからです。高い専門性を築くためには、一生勉強を続ける必要があります。

4月には、ANAが整備を委託している海外の整備会社へ初めて検査員として赴くことができました。検査員とは、海外の委託先で行われた整備がANAの基準を満たし

ているかどうかを検査し、可否を判断する仕事です。海外で仕事をするのが私のモチベーションになっていましたし、この目標に向かってひたすら突き進んできた気がします。今は、次なるステップへと踏み出す時。これまで得てきたものを活かしながら、ステップアップを続けていきたいと思っています。

学生時代は、勉強も遊びも、サークル活動も、全てを一生懸命に頑張りました。それは社会人になった今でも同じ。これからも自分に来たチャンスは逃さず、将来は整備に精通した立場から、会社全体のことを考え、動かし得る存在になりたいと思っています。

杉原 元気さん【2006年 工学部機械システム工学科卒業／
2008年 工学研究科博士課程(前期課程)機械工学専攻修了】
全日本空輸株式会社整備センター 機体事業室ドック整備部 整備第四課

航空機の安全を守ることが、杉原さんの仕事の第一の使命。「安全至上主義」と「お客様のために」という意識は、当然のことながら全社に浸透している。「共通の目標に向かって、一丸となってチームワークで仕事をしていく感覚がとても好きです」。仕事のやりがいを感じたのは、杉原さんが関西へ帰ったある日のこと。偶然その朝に自分が整備したANA機の乗客となったことがあるそうだ。「周りのお客様が楽しそうに乗っているのを見て、達成感がありました。この仕事は、当たり前のことをずっと当たり前で維持することで評価される。努力はもちろん評価してもらえますが、大事なものは結果を出すことです。学生時代から、何をしても結果を出すことを意識して取り組むと、未来も楽しくなると信じて」と、在学生へのメッセージをくれた。

就職先を選ぶ際にまず考えたのは、腰を落ち着けて長く働ける地の元企業であること。また環境経済学のゼミで学んでいたため、環境分野のベンチャー企業を融資などの形で支援したいと思い、京都銀行に決めました。

入行後は寺町二条支店に配属され、預金や貸付業務などを経験。1年4カ月で本部の証券国際部へ異動しました。証券国際部で扱う外国為替関係の書類や業務は英語が多く、英語は最低限のスキルです。私の場合、高校時代から英語が他の教科よりも得意だったため、在学中にTOEIC®の試験を何度も受験しました。その姿勢が人事担当の目に留まったのではないかと思います。

確かな知識と交渉力を持って、 外銀や都銀と渡り合う醍醐味。

現在も証券国際部の外国業務課で、輸出入、外国への送金（仕向送金）、海外からの外貨送金の受け取り（被仕向送金）など、法人の貿易業務の決済を担当しています。JOBローテーションで多岐にわたる業務を一通り経験したことで、お客様に総合的なアドバイスができるようになりました。

輸出入業務では、信用状という支払い確約書を用います。貿易で輸入者（買い手）の支払いを銀行が保証するもので、それをベースに資金の決済を行います。例えば輸出業務では、海外で発行された

信用状とお客様が作成した書類との間に相違がないかを十分にチェックするのですが、時には輸入者の取引銀行である外国の銀行や都市銀行（メガバンク）から「間違いがあるのではないか」と指摘を受けることもあります。しかし、お客様が作成した書類が国際ルールに則っていることを説明できれば、銀行間の交渉次第で入金手続きを進められることも多くあります。外銀や都銀と渡り合うためにも、豊富な知識と交渉力が必要で、日々の勉強や経験を積むことが欠かせません。専門性も高いですし、信用状での取引は世界共通ですから、京都にいながら世界レベルの仕事ができる。それがこの仕事の魅力です。

学生時代で一番印象に残っているのは、ゼミでの活動です。慶應義塾大学や京都大学などの環境経済学のゼミと討論会を行う対抗ゼミは、特に力を入れて取り組みました。あれから10年が経とうとしています。今でも「明日は討論会だ！」と慌てる夢を見ることがあります。しかし、あの時に感じたやりがいや挫けずにやりきった自信は、現在にしつかり生きていけると感じます。私にとって、大学時代の4年間は夢のような時間でした。後輩の皆さんには、その貴重な4年間に自分のできることを精一杯してほしいです。



立野 舞有子さん（旧姓 杉井）【2004年 経済学部卒業】

京都銀行 証券国際部 主任

2009年に同志社大学経済学部の同級生と結婚。同じ銀行に勤めるご主人は、現在上海の駐在員事務所へ単身赴任しているため、2歳半の子どもを育てながら、9時半から16時半までの短時間勤務の制度を利用し、懸命に日々の業務をこなす。「産休を取って職場復帰したのは証券国際部の女性行員では10年ぶりだったのですが、今は出産を控えている同僚が何人かいます。育児休暇も取りやすいですし、出産や育児で休んでも、また元のポジションに復帰できる制度がありますから安心です」。今後は仕事を続けながらもう1人出産し、次に復職した後は指導的立場から後輩たちを育てていくことが希望だと話す。

♪観に行こう聴きに行こう♪—学生団体6月～9月の活動予定—

【学内】

- 6月8日(土) 同志社ミステリ研究会「桜庭一樹講演会」
同志社大学今出川校地(詳細は未定) (13:00予定) 無料
※情報はHP(<http://dms.zatunen.com/>)にて随時更新
- 6月19日(水)・26日(水) 喜劇研究会「お笑いライブ」
寒梅館クローバーホール 13:00～(12:30開場) 無料
- 6月20日(木) ピアノ研究会「寒梅館ミニコンサート」
寒梅館アトリウムスペース 13:00～ 無料
- 6月30日(日) 混声合唱団こまぐさ「サマーコンサート」
寒梅館ハーディーホール 14:30～(14:00開場予定) 無料
- 7月3日(水) タップダンスサークルShimSham
「bプログラム コラボコンサート 中島桃子×ShimSham」
同志社大学京田辺キャンパス ハローホール 17:15～ 無料

【学外】

- 6月1日(土) マンドリンクラブ
「同志社大学マンドリンクラブ第162回定期演奏会」
京都府長岡京記念文化会館 18:30～(18:00開場) 500円(前売り450円)
- 6月7日(金) 学生混声合唱団C.C.D.
「関西学生混声合唱連盟第44回定期演奏会」
兵庫県立芸術文化センター大ホール 16:45～当日1,000円(前売り500円)
- 6月15日(土) 交響楽団「第52回同立交歓演奏会」
京都コンサートホール大ホール 18:00～(17:00開場) 1,000円(全席自由)
- 6月16日(日) 能楽部金剛会「金剛流学生能楽連盟白演会」
金剛能楽堂 13:00～ 無料
- 6月22日(土) 能楽部観世会「同志社観世能」
嘉祥閣 12:30～ 無料
- 6月22日(土) 学生混声合唱団C.C.D.
「第53回同志社学生混声合唱団C.C.D.×
早稲田大学混声合唱団 交歓演奏会」
第一生命ホール 17:00～(16:30開場) 無料
- 9月8日(日) マンドリンクラブ「同志社大学群馬演奏会」
高崎市文化会館 17:30～(17:00開場) 1,000円(高校生以下無料)
- 9月29日(日) 能楽部金剛会「三謡会」
大津市伝統芸能会館 13:00～ 無料

応援に行こう!～体育会試合日程

開催日時、開催場所、対戦校、料金などは変更されることがあります。

【空手道部】

- 6月2日(日) 第51回西日本大学空手道選手権大会
会場:近畿大学記念体育館
- 6月30日(日) 第57回全日本学生空手道選手権大会並びに東西対抗戦
会場:日本武道館
- 9月9日(月) 第5回関西学生オーブントーナメント
会場:近畿大学記念体育館

【カヌー部】

- 8月10日(土)～13日(火) 関西学生カヌー選手権大会
対戦相手:西日本の大学カヌー部(立命館大学、関西学院大学、京都大学、
福井工業大学、鹿屋体育大学など)
会場:琵琶湖漕艇場(滋賀県 大津市)
- 8月27日(火)～9月1日(日) 全日本学生カヌー選手権大会
対戦相手:全国の大学カヌー部(立命館大学、関西学院大学、京都大学、
福井工業大学、鹿屋体育大学、大正大学、日本体育大学、専修大学など)
会場:木場漕カヌー競技場(石川県 小松市)
- 9月12日(木)～16日(月・祝) 日本選手権大会 平成25年度日本カヌースプリント選手権大会
対戦相手:全国のカヌースプリント選手(オリンピック代表選手も出場)
会場:木場漕カヌー競技場(石川県 小松市)

【ラグビー部】いずれも時間は未定

- 6月2日(日) 伊那市招待試合
対戦相手:筑波大学 会場:伊那市陸上競技場
- 6月16日(日) 定期戦
対戦相手:立教大学 会場:未定

- 6月23日(日) 定期戦
対戦相手:慶應義塾大学 会場:未定
- 【ボードセーリング部】
- 7月6日(土)・7日(日) 関西選手権第一戦
会場:琵琶湖
- 8月3日(土)・4日(日) 伊勢湾カップ
会場:新舞子
- 【アメリカンフットボール部】いずれも時間は未定
- 6月16日(日) 定期戦
対戦相手:慶應義塾大学 会場:未定
- 6月23日(日) 定期戦
対戦相手:関西大学 会場:関西大学千里グラウンド
- 6月30日(日) 定期戦
対戦相手:東義大学 会場:同志社大学京田辺グラウンド
- 【アーチェリー部】
- 6月7日(金)～9日(日) 第42回全日本フィールドアーチェリー選手権大会
【バドミントン部】
- 6月10日(月)～20日(木) 関西選手権
- 【テニス部】
- 6月8日(土)～13日(木) 関西学生チャレンジテニストーナメント(ダブルス)
会場:各大学テニスコート
- 6月22日(土)～28日(金) 関西学生チャレンジテニストーナメント(シングルス)
会場:各大学テニスコート
- 8月2日(金)～12日(月) 関西学生テニス選手権大会(予選)
会場:各大学テニスコート
- 8月14日(水)～25日(日) 全日本学生テニス選手権大会
会場:岐阜メモリアルパーク
- 【卓球部】
- 6月16日(日) 関西学生選抜
会場:大阪商業大学体育館
- 6月27日(木)～30日(日) 全日本学生総合(団体)
会場:愛知県 スカイホール豊田
- 【日本拳法部】
- 6月9日(日) 第14回西日本学生拳法個人選手権大会
会場:吹田市立武道館



障がい学生支援制度 サポートスタッフ大募集!

同じキャンパスで学ぶ障がい学生(Challenged)の立場に立って、責任を持って支援活動に取り組んでくださる方を募集しています。初めての方でもできることはたくさんありますので、ぜひスタッフに登録して、パソコン通訳・ノートテイク・映像字幕付け・代筆・車椅子介助などの活動にご協力ください。講習会や各種イベントなど、詳しくは障がい学生支援室HP (<http://challenged.doshisha.ac.jp/>)で随時お知らせしています。関心のある方は、障がい学生支援室までお気軽にお越しください。

【支援活動の内容】

聴覚障害: パソコン通訳、ノートテイク、映像文字起こし・字幕付けなど
視覚障害: ガイドヘルプ、代筆、代読、対面朗読、講義資料・試験問題の点訳、電子データ化など

肢体不自由: 代筆、車椅子介助、トイレ介助、食事介助など

【謝礼】880円/時間

【お申し込み・お問い合わせ先】

学生支援センター 障がい学生支援室(京田辺/副業館1階)
TEL: 0774-65-7411 E-mail: jt-care@mail.doshisha.ac.jp
学生支援センター 障がい学生支援室(今出川/寒梅館1階)
TEL: 075-251-3273 E-mail: ji-care@mail.doshisha.ac.jp
学生支援センター 障がい学生支援室(今出川/待居館1階)
TEL: 075-251-3261
(両校地とも障がい学生支援コーディネータが常駐しています)

Doshisha Spirit Week 2013 SPRING

同志社大学には、建学以来脈々と受け継がれてきたキリスト教主義教育、新島襄の建学の教育理念、そしてその実践といった建学の精神と伝統があります。Doshisha Spirit Weekは、キリスト教主義教育や創立者新島襄について触れ、同志社人としてのアイデンティティを高めることを目的として、2003年から始まりました。期間中は、展示など様々な企画を行います。

【期間】開催中～6月1日(土)

【6月のプログラム】

<今出川校地>

●第42回Neesima Room企画展 「会津と八重―八重を育てた故郷―」

【期間】6月30日(日)まで ※期間中に展示替えを行います。

【時間】10:00～17:00 (土・日は16:00まで) 閉室日:火曜日

【会場】Neesima Room (今出川キャンパス ハリス理化学館2階)

【お問い合わせ先】同志社社史資料センター TEL:075-251-3042

オープン・プログラム公開講演会

【講演タイトル】「新翻訳事業について ―スコポス理論と翻訳作業の実際―」

【講演者】一般財団法人 日本聖書協会 総主事 渡部 信 氏

【日時】6月25日(火) 13:10～

【会場】今出川キャンパス クラーク記念館2階 クラーク・チャペル

【お問い合わせ先】

京田辺校地キリスト教文化センター TEL:0774-65-7370

今出川校地キリスト教文化センター TEL:075-251-3320

『志コンテスト』―平成の新島襄 志を継ぐ者達の主張―

「持ち金全てを差し出しても彼の想いを応援したい」

同志社の創立者新島襄は、ラットランドの教会で行った演説に感銘を受けた人々から5000ドルもの寄付金を得ました。その中には、帰りの汽車賃である持ち金2ドルを差し出し新島先生の志を支援した農夫もいました。新島先生はこの2ドルをとっても大切に思い、決して忘れることはありませんでした。同志社に設立当時から伝わるこの逸話に基づき、現在の学生の志を支援する試みとして2011年に始まったのが「志コンテスト」です。

7月7日、5名の学生が自らの「志」を語る

今年も熱い想い、強い志をもつ学生による演説を行います。当日は来場者を交えた投票を行い、最も多くの共感を呼んだ1名に対し新島賞30万円を志援金として進呈します。在学生の志を、ぜひこの機会に感じてください。

【日時】7月7日(日)15:00～17:10 懇親会17:30～

【会場】今出川キャンパス 神学館3階礼拝堂

詳細はホームカミングデー2013HP <http://www.doshisha-koyu.net>

【お問い合わせ先】企画部広報室 校友・父母課 TEL:075-251-3009

同志社フェア in 会津若松

新島襄の妻、八重(大河ドラマ主人公)ゆかりの地で、大学関係者、卒業生、在学生のご父母など同志社に連なる人々が一同に会し、交流を深めます。

内容は、村田学長による大学の近況報告、作家・保阪正康氏による講演会「新島八重・その生涯を考える」、福島県立葵高等学校と本学グリークラブによる交流コンサート、ふくしま八重隊によるパフォーマンス、新島八重紙芝居など、盛りだくさんです。皆さまの参加をお待ちしています。

【日時】7月21日(日) 13:00～16:30 (交流会16:30～18:00)

【会場】会津若松ワシントンホテル

詳細はHP http://www.doshisha.ac.jp/alumni/doshisha_fair/doshisha_fair.html

【お問い合わせ先】企画部広報室 校友・父母課 TEL:075-251-3009



FLAT bふらっとプログラム

京田辺校地ハローホール(多目的ホール)では、コンサートや映画上映などの文化プログラムを行います。

【会場】京田辺校地ハローホール 【料金】入場無料

●6月5日(水) ～北欧・白夜の音楽祭～
「ヨーランモンソン+かとうかこ+松本太郎」
17:15～

●6月20日(木) 映画上映「るろうに剣心」
12:20～/14:55～/17:30～

●7月3日(水) ～スペイン横断800km フラメンコギター～
「中島 桃子×ShimSham」
17:15～

【お問い合わせ先】京田辺校地学生支援課 TEL:0774-65-7413



WOT(ワット)＝"What's On Thursdays!"

「木曜日には何かがある!」を合言葉に、開講期間中の毎週木曜日、映画上映を中心に多彩なイベントを開催します。

【会場】寒梅館ハーディーホール 【料金】本学学生・教職員はすべて無料 <cinema>

●6月6日(木) 『大地の詩』(2011年/日本/116分)
10:30/13:30/18:00
*一般1300円、Hardience会員・他大学生1000円

●6月13日(木) 『ゴモラ』(2008年/イタリア/135分)
13:30/17:00

*16:00～真銅先生によるトークあり

*一般有料

●6月20日(木) 『リュック・ムレ コレクション』
『ブリジットとブリジット』(1966年/72分) 15:30
『密輸業者たち』(1967年/76分) 17:15

『ビリー・ザ・キッドの冒険』(1971年/75分) 19:00

*一般有料

●6月27日(木) 『ひまわり～沖縄は忘れない あの日の空を～』
(2012年/日本/110分)

*詳細未定

【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課 TEL:075-251-3270

※内容は都合により変更となる場合があります。詳細はお問い合わせください。

※春学期は7月初旬までを予定しています。秋学期は10月から再開予定です。



クローバーシアター

開講期間中の毎週火曜日、寒梅館のミニシアター・クローバーホールでは、映画史に残る名作を中心に様々なイベントを開催します。

【会場】寒梅館クローバーホール(地階)

【料金】本学学生・教職員はすべて無料

<6月のラインナップ>

●6月4日(火) 《ヌーヴェル・ヴァーグの新時代1》
『アンナ・マダレーナ・バッハの年代記』
(監督:ダニエル・ユイレ、ジャン＝マリー・ストロブ) 17:00
『アデュー・フィリピーヌ』

(監督:ジャック・ロジエ) 18:45

*入場無料

●6月11日(火) 《ヌーヴェル・ヴァーグの新時代2》
『恋人たちの失われた革命』
(監督:フィリップ・ガレル) 15:30
『ラ・ピラート』(監督:ジャック・ドワイヨン) 18:50

*入場無料

●6月18日(火) 『眠り姫』アコースモニウム上映
17:30開場/18:00開演

*上映終了後、七里圭監督、檜垣智也氏(アコースモニウム演奏)、川崎弘二氏によるトークあり

*500円均一

●6月25日(火) 映画上映 *詳細未定

【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課 TEL:075-251-3270

※内容は都合により変更となる場合があります。詳細はお問い合わせください。

※春学期は7月初旬までを予定しています。秋学期は10月から再開予定です。

同志社大学初の女性体育会委員長

「マネージャーの視点からつくった目標は「みんなで強くなる！」

昨年の12月から、体育会委員長を務めています。同学年の7人の委員の中から、話し合いと投票で委員長

ます。お互いの良い部分を積極的に取り入れることで各々が刺激し合い、成長できるのではないのでしょうか。

に選ばれました。3年前に友人の付き添いでボードセイリング部の見学に行ったことがきっかけでマネージャーになり、さらに体育会本部の委員長を務めることになるのは、入部当時は思いもしなかったですね。部の正規練習が土日のので、平日に開かれる本部会議によく出席していたことや、他大学の本部の方に活動の活性化方法について話を聞き、委員の先輩方に報告していたことなどが評価されたのだと思います。初の女性体育会委員長ですし、マネージャー経験もあるのですが、これまでの委員長とは違う視点を大事にしたいと思っています。

に、私が考えている全てのことを達成するのは難しいでしょうが、少なくとも体育会規約の現状に合っていない部分の改正と、前述の交流イベントの機会を増やすことは実現させたいです。スポーツの魅力は、普段スポーツをしていない人にも感動を与えられることだと思います。より多くの人と感動を共有するために、同志社の体育会50部、総勢1800人が強くなっていく支えになりたいです。

今年の本部の目標は「みんなで強くなる！」。体育会が一丸となり、同志社の体育会所属部がさらに強くなるために、既存のフレッシュャーズキャンプやリーダーズキャンプに加え、同学年が集う機会もつくる予定です。横のつながりができれば、部の枠を超えて練習メニューや運営方法などの情報交換が可能になり

また、関関同立の体育会本部と合同で、小学生を対象としたスポーツ教室を開催しています。関西は、関東に比べると学生スポーツへの注目度が低く、強い選手が関東の大学へ進学する傾向にあります。それをなんとか食い止めたいというのが、スポーツ教室を始めた目的です。関西で活躍する一流選手の姿を小学生に間近で見てもらい、スポーツの楽しさを実感してもらえれば、将来的に関西の大学に進学して部活動に打ち込む選択肢をもってもらえるはずです。

私はボードセイリング部のマネージャーを3月で引退しましたが、1年の集大成ともいえる全日本学生ボードセイリング選手権の大学対抗戦で5年ぶりの総合優勝を果たし、先輩や後輩の温かな雰囲気の中で充実した時間を過ごすことができました。ルールを守ること、先輩を尊敬することなど、体育会で得たものは大きく、就職活動や社会人になってからの糧になると思います。委員長の任期中

三谷 和生^{あいみ}さん
【政策学部4年次生】

